

# 本書の構成

---

## 本書をお読みにする前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

---

## 第1章 はじめに

各部の名称と働きや電源の入れかた／切りかたなど、本パソコンをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

---

## 第2章 ハードウェアについて

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）機器について、基本的な取り扱いかたなどを説明しています。

---

## 第3章 BIOS セットアップ

本パソコンの日時や省電力モードの設定に必要な、BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためのパスワードの設定方法についても説明しています。

---

## 第4章 困ったときに

本パソコンにトラブルが発生したときなど、どうすればいいかを説明しています。必要に応じてお読みください。

---

## 第5章 技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

---

# 目次

<b>本書をお読みになる前に</b> .....	7
安全にお使いいただくために .....	7
本書の表記 .....	8
警告ラベル／注意ラベル .....	10

## 第1章 はじめに

---

<b>1 各部の名称と働き</b> .....	12
パソコン本体前面 .....	12
パソコン本体背面 .....	14
パソコン本体内部 .....	16
マザーボード .....	17
<b>2 キーボードについて</b> .....	18
<b>3 マウスについて</b> .....	20
マウスの使いかた .....	20
<b>4 設置</b> .....	22
設置する場所について .....	22
設置例 .....	22
<b>5 接続</b> .....	23
ディスプレイ／キーボード／マウス／LAN ケーブルの接続 .....	24
電源ケーブルの接続 .....	26
<b>6 電源を入れる</b> .....	28
電源を入れるときの注意事項 .....	28
電源の入れかた .....	28
<b>7 電源を切る</b> .....	30
電源を切るときの注意事項 .....	30
電源の切りかた .....	30
<b>8 リセットする</b> .....	32
リセットの方法 .....	32
<b>9 CD について</b> .....	34
取り扱い上の注意 .....	34
CD をセットする／取り出す .....	35
<b>10 フロッピーディスクについて</b> .....	36
取り扱い上の注意 .....	36
フロッピーディスクをセットする／取り出す .....	36

## 第2章 ハードウェアについて

---

<b>1 オプションを取り付ける前に</b> .....	40
オプションとは .....	40
取り扱い上の注意 .....	40
オプションの取り付け位置 .....	41
フロントアクセスベイオプションについて .....	42
<b>2 本体カバーを取り外す</b> .....	44
本体カバー／フロントパネルを取り外す .....	44
<b>3 メモリを増やす</b> .....	46
メモリの取り付け場所 .....	46
取り付けられるメモリ .....	47
メモリを取り付ける／取り外す .....	47
<b>4 拡張カードを増設する</b> .....	49
取り付けられる拡張カード .....	50
拡張カードを取り付ける .....	50
<b>5 内蔵ハードディスクを取り付ける</b> .....	52
ハードディスク取り扱い上の注意 .....	52
内蔵ハードディスクベイに取り付ける .....	54
フロントアクセスベイに取り付ける .....	57
<b>6 その他のオプションを取り付ける</b> .....	58
5 インチフロントアクセスベイに取り付ける .....	58

## 第3章 BIOS セットアップ

---

<b>1 BIOS セットアップとは</b> .....	64
<b>2 BIOS セットアップの操作のしかた</b> .....	65
BIOS セットアップを起動する .....	65
設定を変更する .....	66
BIOS セットアップを終了する .....	67
<b>3 ご購入時の設定に戻す</b> .....	68
<b>4 メニュー詳細</b> .....	69
メインメニュー .....	69
詳細メニュー .....	72
標準設定メニュー .....	82
セキュリティメニュー .....	83
終了メニュー .....	83

<b>5 BIOS のパスワード機能を使う</b> .....	84
パスワードの種類 .....	84
パスワードを設定する .....	84
パスワードを忘れてしまったら .....	85
パスワードを変更する／削除する .....	86
<b>6 BIOS が表示するメッセージ一覧</b> .....	87
メッセージが表示されたときは .....	87
メッセージ一覧 .....	87

## 第4章 困ったときに

---

<b>1 こんなときには</b> .....	92
それでも解決できないときは .....	94

## 第5章 技術情報

---

<b>1 ハードウェアのお手入れ</b> .....	96
パソコン本体のお手入れ .....	96
キーボードのお手入れ .....	96
CDのお手入れ .....	96
マウスのお手入れ .....	97
フロッピーディスクドライブのお手入れ .....	98
<b>2 廃棄について</b> .....	99
<b>3 テレビ／ラジオなどの受信障害防止について</b> .....	100
<b>4 筐体のセキュリティ</b> .....	101
<b>5 LAN 機能の診断テスト</b> .....	102
<b>6 標準仕様</b> .....	103
本体仕様 .....	103
LAN アダプタ仕様 .....	104
サウンド仕様 .....	104
グラフィック仕様 .....	104
コネクタ仕様 .....	105
<b>7 その他の注意事項</b> .....	108
USB について (Windows98/2000 モデル) .....	108
USB キーボード (Windows98 モデル) .....	108
USB 機器の増設 (Windows98/2000 モデル) .....	109
LAN アダプタの追加について .....	109
Wake up On LAN について .....	109
ディスプレイをお使いになるうえでの注意 .....	109
ディスプレイカードの取り付け (Windows98/2000 モデル) .....	109
ディスプレイの接続 .....	110

ディスプレイの交換 .....	111
省電力機能 .....	112
CD-ROM ドライブ .....	112
スクロール機能（ホイール機能）付きマウス（Windows98 モデル） .....	112
コアの取り付けについて .....	113
WindowsNT 4.0 をお使いになる場合 .....	113
デバイスマネージャの表示（Windows98/2000 モデル） .....	113
アプリケーション動作中のサウンドについて（Windows98 モデル） .....	114
復電機能 .....	114
シリアルポートについて（Windows2000 モデル） .....	114
<b>索引</b> .....	<b>117</b>



# 本書をお読みになる前に

## 安全にお使いいただくために

本書には、本パソコンを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本パソコンをお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本パソコンをお使いください。

また、本書および『安全上のご注意』は、本パソコンの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準 (PC-11-1988) に適合しております。

### 注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

この装置は、説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化促進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリ及び複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク  は、参加各国の間で統一されています。

本パソコンには、“外国為替及び外国貿易法”に基づく特定貨物が含まれています。従って本パソコンを輸出する場合には、同法に基づく許可が必要とされています。

Microsoft、Windows、MS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。  
AMD-K6 は、Advanced Micro Devices, Inc. の登録商標です。  
ATI、RAGE は ATI Technologies Inc. の商標です。  
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。  
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2000  
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

## 本書の表記

### 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 <b>警告</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

### 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 <b>重要</b>	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 <b>POINT</b>	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

### キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

## コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
  ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を1回押してください。  
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

```
[CD-ROMドライブ]:¥setup.exe
```

## 画面例

本書に記載されている画面は一例です。お使いのパソコンに表示される画面やファイル名などと異なる場合があります。ご了承ください。

## イラスト

本書に記載されているイラストは一例です。取り付けるオプションによっては、お使いのパソコンと異なる場合があります。ご了承ください。

## 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」をクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

## BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「メイン」の「ECC モード」の項目を「使用しない」に設定します。

↓

「メイン」-「ECC モード」:使用しない

## お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2000 年 5 月現在のものです。変更されている場合は、FM インフォメーションサービスへお問い合わせください（→『修理サービス網一覧表』参照）。

## カスタムメイドオプション

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドオプションを取り付けている場合、メモリ容量やハードディスク容量などの記載が異なります。ご了承ください。

## 製品の呼びかた

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。

Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION を、Windows98 と表記しています。

Microsoft® Windows NT® Server network Operating System Version 4.0 および Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0 を、WindowsNT 4.0 または WindowsNT と表記しています。

Microsoft® Windows® 2000 Professional を、Windows2000 と表記しています。

FMV-5533ML5 を、本パソコン、またはパソコン本体と表記しています。

## 警告ラベル／注意ラベル

---

本パソコンには警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。

警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

# 第1章

## はじめに

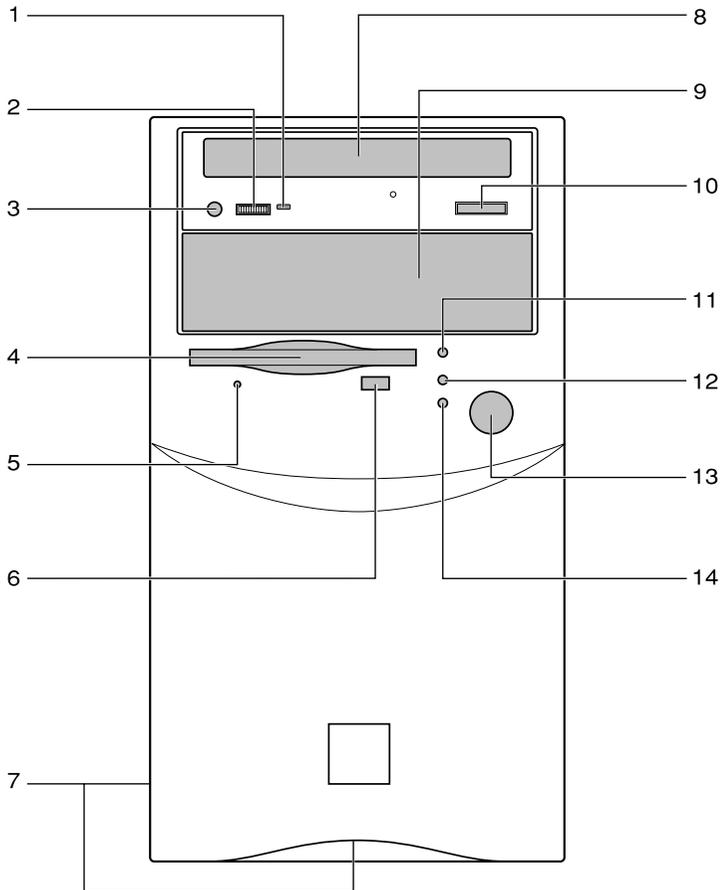
各部の名称と働きや電源の入れかた／切りかたなど、本パソコンをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

1	各部の名称と働き .....	12
2	キーボードについて .....	18
3	マウスについて .....	20
4	設置 .....	22
5	接続 .....	23
6	電源を入れる .....	28
7	電源を切る .....	30
8	リセットする .....	32
9	CDについて .....	34
10	フロッピーディスクについて .....	36

# 1 各部の名称と働き

ここでは、パソコン本体、マザーボードの各部の名称と働きを説明します。

## パソコン本体前面



### 1 BUSY ランプ

CD-ROM からデータを読み込んでいるときや音楽 CD を再生しているときに点灯します。

### 2 ヘッドホンボリューム（音楽 CD のみ）

ヘッドホンを接続したときに、音量を調整します。

### 3 ヘッドホン端子（音楽 CD のみ）

市販のヘッドホンで音楽 CD を聴くときに、ヘッドホンを接続します。

### 4 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクをセットしてデータを書き込んだり、読み出したりします。

**5 フロッピーディスクアクセス表示ランプ**

フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出し  
たりしているときに点灯します。

**6 フロッピーディスク取り出しボタン**

フロッピーディスクを取り出すときに押します。  
フロッピーディスクアクセス表示ランプが点灯しているときは、押さないでください。

**7 通風孔（側面およびフロントパネル下部）**

冷却のために空気を取り込みます。

**8 CD-ROM ドライブ**

CD-ROM のデータやプログラムを読み出したり、音楽用 CD を再生したりします。

**9 フロントアクセスベイ**

内蔵ハードディスクや MO（光磁気ディスク）ドライブなどのフロントアクセスベイオブ  
ションを取り付けます。

**10 EJECT ボタン**

CD-ROM や音楽 CD をセットまたは取り出すときに押します。パソコン本体の電源が入っ  
ているときに使えます。BUSY ランプが点灯しているときは、押さないでください。

**11 ハードディスクアクセス表示ランプ**

ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクからデータを読み出したりして  
いるときに点灯します。

**12 電源ランプ**

パソコン本体に電源が入っているときに点灯します。  
動作しているときは緑色に点灯します（スタンバイ時にも点灯）。

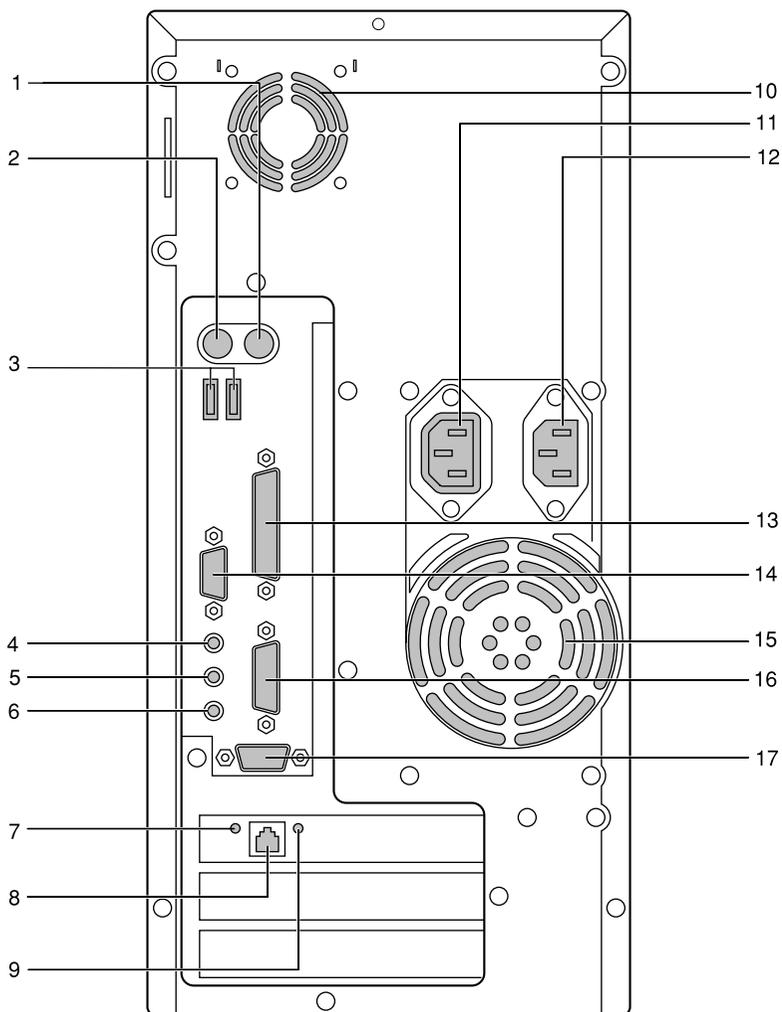
**13 電源スイッチ**

パソコン本体の電源を入れるときや、スタンバイにするときに押します。

**14 スリープランプ**

スタンバイ時に、オレンジ色に点灯します。

## パソコン本体背面



**1** マウスコネクタ (  : MOUSE)

マウスを接続します。

**2** キーボードコネクタ (  : KEYBOARD)

キーボードを接続します。

**3** USB コネクタ

USB 規格の周辺装置を接続します。接続に関しては、「[USB について \(Windows98/2000 モデル\)](#)」 (→ P.108) をご覧ください。

**4** LINE OUT 端子

アンプ付スピーカーを接続します。

**5** LINE IN 端子

オーディオ機器の出力端子を接続します。

**6 マイク端子**

市販のコンデンサマイクを接続します。

**7 100BASE-TX ランプ**

100BASE-TX 規格のスピードでデータ転送しているときに点灯します。

**8 LAN コネクタ**

LAN ケーブルを接続します。

**9 Link ランプ**

リンクが確立しているときに点灯します。

**10 通風孔**

パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。ふさがないようにください。

**11 アウトレット**

ディスプレイの電源ケーブルを接続します。

**12 インレット**

パソコン本体の電源ケーブルを接続します。

**13 パラレルコネクタ**

プリンタやスキャナなどのケーブルを接続します。  
パラレルポートともいいます。

**14 CRT コネクタ**

ディスプレイケーブルを接続します。

**15 通風孔**

パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。ふさがないようにください。

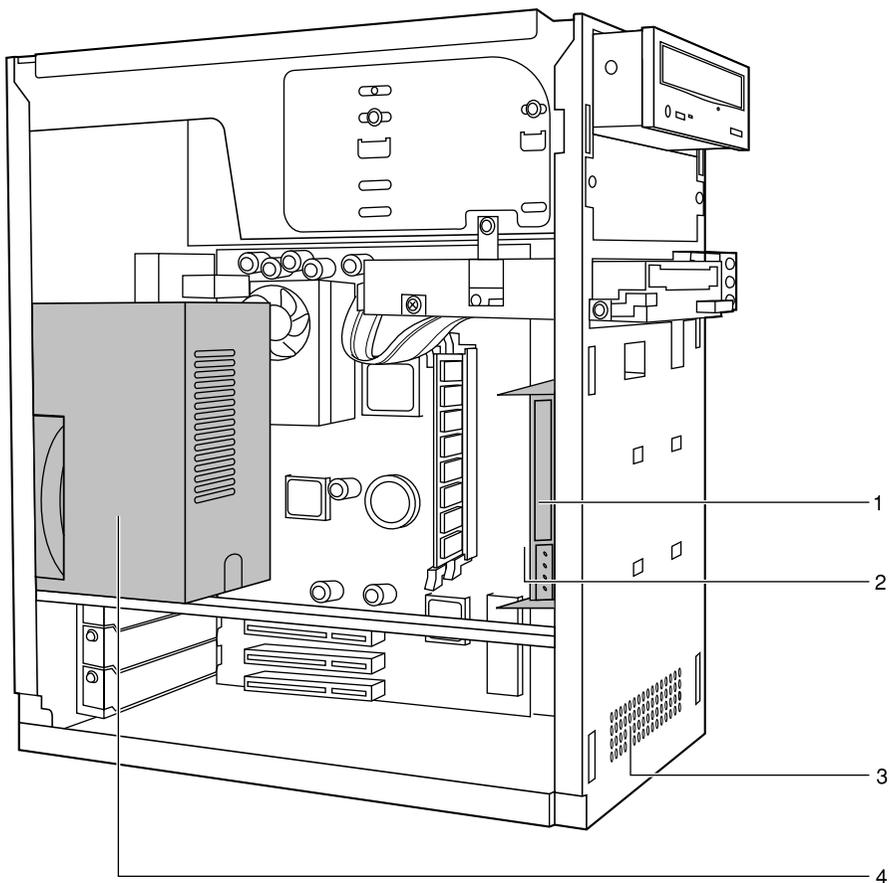
**16 MIDI/JOYSTICK 端子**

MIDI ケーブルやジョイスティックを接続します。

**17 シリアルコネクタ**

デジタルカメラ、ターミナルアダプタなどの、RS-232C 規格に対応した機器のケーブルを接続します。D-SUB9 ピンのケーブルが使えます。シリアルポートともいいます。

## パソコン本体内部



### 1 内蔵ハードディスク

IDE規格のハードディスクが取り付けられています。より大容量のハードディスクに交換することもできます。

### 2 内蔵ハードディスクベイ

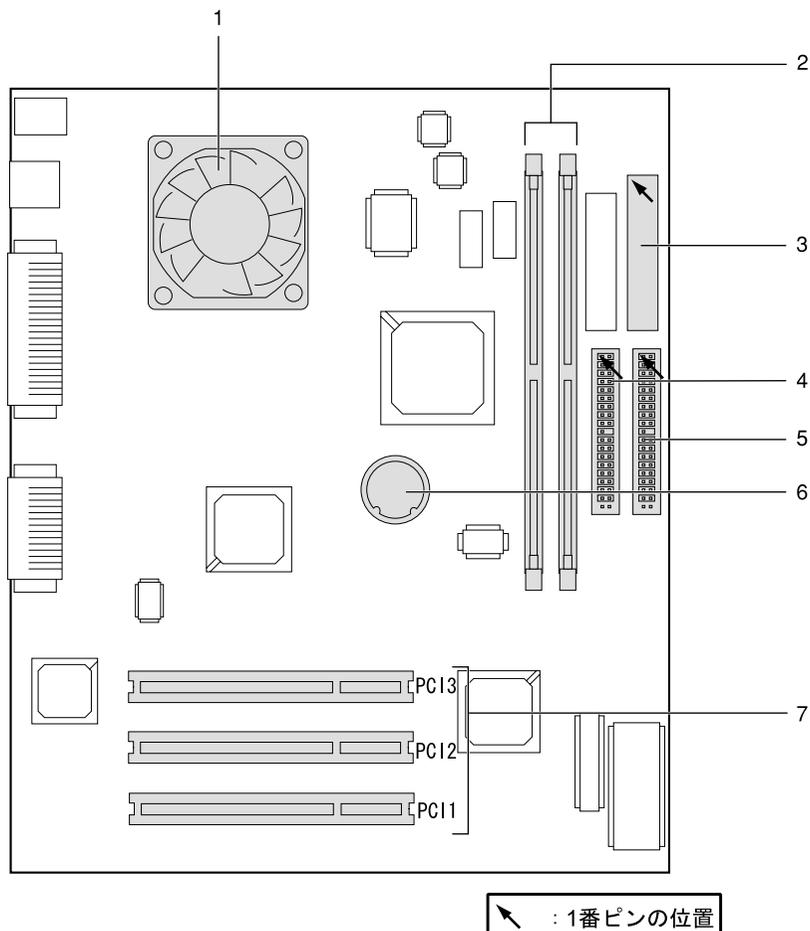
IDE規格の内蔵ハードディスクを取り付けます。

### 3 通風孔

パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。  
ふさがないでください。

### 4 電源ユニット

## マザーボード



**1** CPU（CPU FAN の下にあります）

**2** DIMM スロット

メモリを取り付けます。図中左から DIMM1、DIMM2 と並んでいます。

**3** フロッピーコネクタ

フロッピーディスクドライブのケーブルを接続します。

**4** セカンダリ IDE コネクタ

CD-ROM ドライブのケーブルを接続します。

**5** プライマリ IDE コネクタ

OS が起動するハードディスクのケーブルを接続します。

**6** 内蔵バッテリー

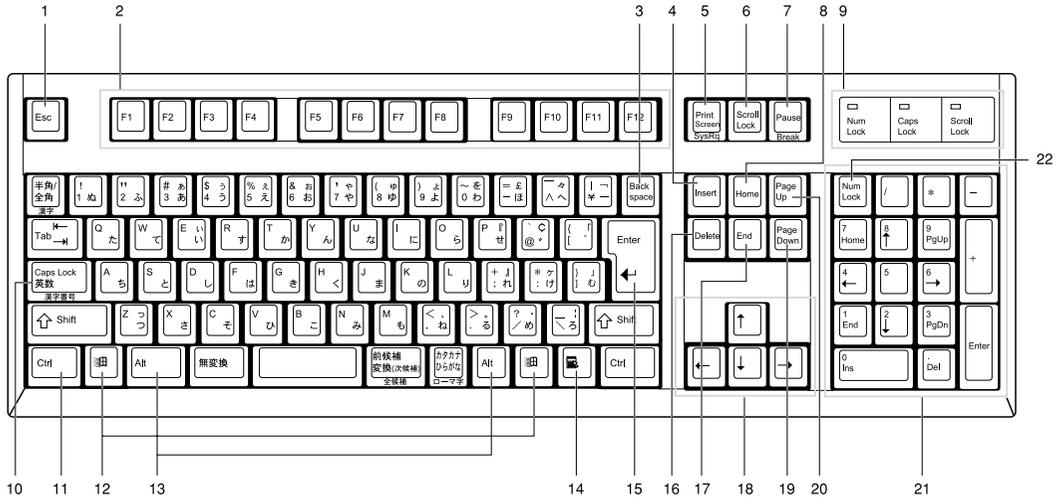
本パソコンのセットアップ値を保存するためのバッテリーです。標準の使用状態で約 5 年間お使いになれます。

**7** PCI コネクタ

PCI カードを取り付けます。図中下から、PCI1 ～ 3 と並んでいます。

## 2 キーボードについて

ここでは、キーボード（109 日本語キーボード）のキーの役割を説明します。



### 1 Esc（エスケープ）キー

ソフトウェアの実行中の動作を終了します。

### 2 F（ファンクション）キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

### 3 Back space（バックスペース）キー

カーソルを左へ移動し、文字を削除するときに押します。

### 4 Insert（インサート）キー

文字の挿入／上書きの切り替えをするときに押します。

### 5 Print Screen（プリントスクリーン）キー

画面のハードコピーを取るときに押します。

### 6 Scroll Lock（スクロールロック）キー

画面のスクロールを禁止するときに押します。

### 7 Pause（ポーズ）キー

ハードコピーの出力などの操作を、一時的に止めるときに押します。

### 8 Home（ホーム）キー

カーソルを行の最初や文書の最初に、一度に移動するときに押します。

### 9 インジケータ

【Num Lock】キー、【Shift】+【Caps Lock 英数】キー、【Scroll Lock】キーを押すと点灯し、各キーが機能する状態になります。再び押すと消え、各キーの機能が解除されます。

### 10 Caps Lock（キャプスロック）、英数キー

アルファベットを入力するときに使います。

【Shift】+【Caps Lock 英数】キーで大文字／小文字を切り替えます。

**11 Ctrl (コントロール) キー**

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

**12 Windows (ウィンドウズ) キー**

「スタート」メニューを表示するときに押します。

**13 Alt (オルト) キー**

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

**14 Application (アプリケーション) キー**

マウスの右クリックと同じ役割をします。

選択した項目のショートカットメニューを表示するときに押します。

**15 Enter (エンター) キー**

リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

文を改行したり、コマンドを実行したりします。

**16 Delete (デリート) キー**

文字を削除するときに押します。また、【Ctrl】キーと【Alt】キーを一緒に押すと、本パソコンをリセットできます。

**17 End (エンド) キー**

カーソルを行の最後や文書の最後に、一度に移動するときに押します。

**18 カーソルキー**

カーソルを移動します。

**19 Page Down (ページダウン) キー**

次の画面に切り替えるときに押します。

**20 Page Up (ページアップ) キー**

前の画面に切り替えるときに押します。

**21 テンキー**

「Num Lock」インジケータ点灯時に数字が入力できます。

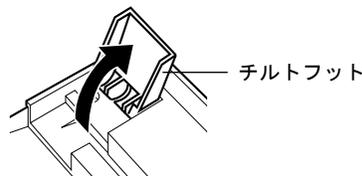
「Num Lock」インジケータ消灯時にキー下段に刻印された機能が有効になります。

**22 Num Lock (ニューメリカルロック) キー**

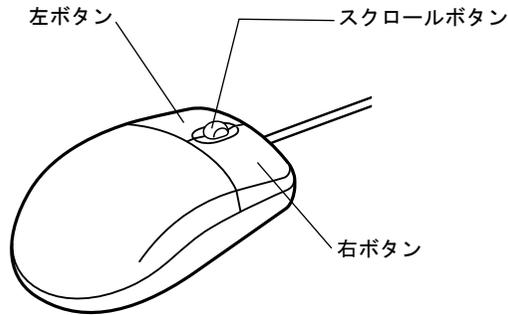
テンキーの機能を切り替えるときに押します。

**POINT**

- ▶ キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけることができます。



## 3 マウスについて



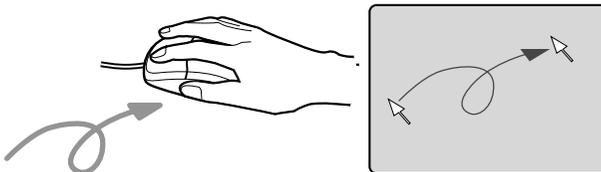
### POINT

- ▶ マウスは、定期的にクリーニングを行ってください (→ P.97)。

## マウスの使いかた

### マウスの動かしかた

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、画面上の矢印（これを「マウスポインタ」といいます）が同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



### ボタンの操作

- クリック



マウスの左ボタンを1回カチッと押します。  
また、右ボタンをカチッと押すことを「右クリック」といいます。

## ● ダブルクリック



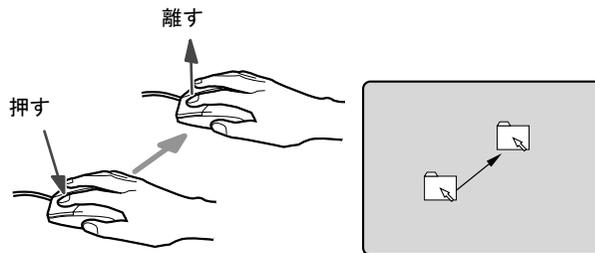
マウスの左ボタンを2回連続してカチカチッと押します。

## ● ポイント



マウスポインタをメニューなどに合わせます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合(メニューの右端に▶が表示されています)、そのメニューが表示されます。

## ● ドラッグ



マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。

## ● スクロール

- スクロールボタンを前後に操作することで、ウィンドウ内の表示をスクロールさせることができます。また、第3のボタンとして、押して使うこともできます。
- スクロール機能は、対応したアプリケーションで使うことができます。

## 🔍 POINT

- ▶ 上記のボタン操作は、「マウスのプロパティ」ダイアログボックスで「右利き用」に設定した場合の操作です。

## 4 設置

本パソコンの設置方法、および場所について説明します。

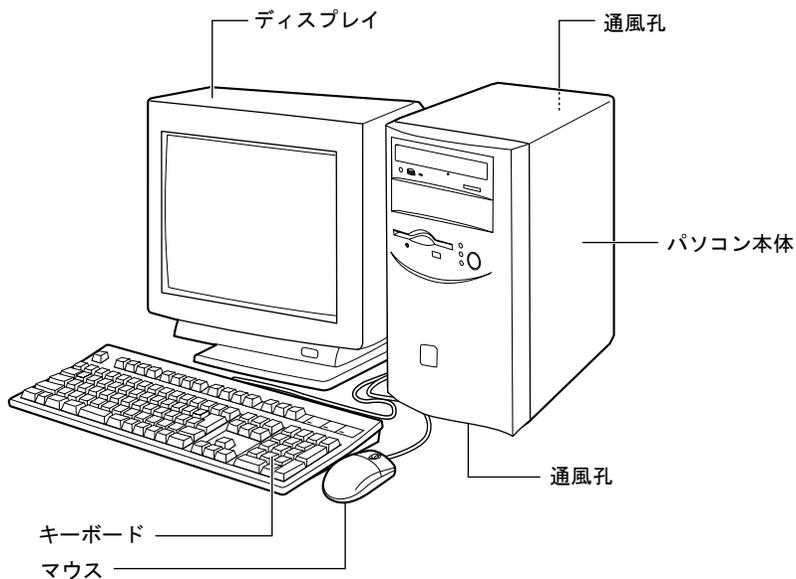
### 設置する場所について

本パソコンを設置する場合は、次の場所は避けてください。

- 湿気やほこり、油煙の多い場所
- 通気性の悪い場所
- 火気のある場所
- 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所
- 10℃未満の低温になる場所
- 電源ケーブルに足が引っかかる場所
- テレビやスピーカーの近くなど、強い磁界が発生する場所
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所

### 設置例

本パソコンは次のように設置してください。



#### POINT

- ▶ パソコン本体の側面、底面および背面の通風孔をふさがないように設置してください。

## 5 接続

パソコン本体に、ディスプレイ、キーボード、電源ケーブルなどを接続します。

### 警告



感電

- アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアース接続をしてください。アース接続をしないと、感電のおそれがあります。また、アース線は、ガス管には絶対に接続しないでください。火災の原因となります。



感電

- ディスプレイ、キーボード、マウス、LAN ケーブル、電源ケーブルの取り付けや取り外しを行う場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。



感電

- ディスプレイ、キーボード、マウスを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。感電・火災または故障の原因となることがあります。

### 注意



故障

- ケーブルの接続は、間違いがないようにしてください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体および周辺装置が故障する原因となることがあります。



発火

- サービスコンセントがある装置の場合は、マニュアルに記載されていない装置をサービスコンセントに接続しないでください。火災・故障の原因となることがあります。



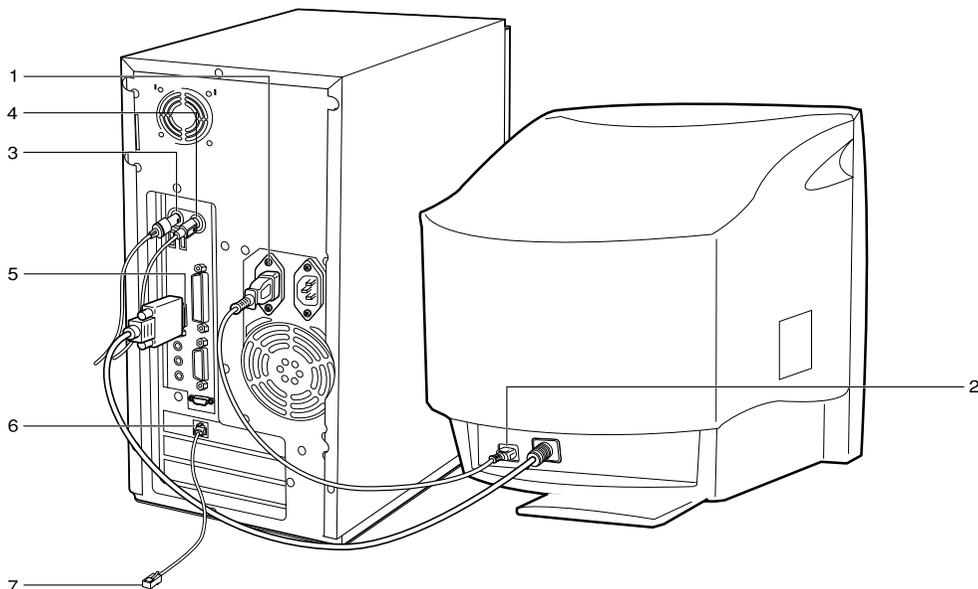
けが

- プリント板上の部品には、指定された場所以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

## ディスプレイ／キーボード／マウス／LAN ケーブルの接続

### POINT

- ▶ ここでは、ディスプレイの電源をパソコン本体からとる場合の接続方法について説明しています。この場合、ディスプレイに添付の電源ケーブルは使いません。
- ▶ LAN ケーブルは、別売のツイストペアケーブルをご購入のうえ、お使いください。
- ▶ 接続の際にコアを取り付ける必要があります。取り付けの方法については「[コアの取り付けについて](#)」(→ P.113)をご覧ください。



### 1 電源ケーブルをアウトレットに接続します。

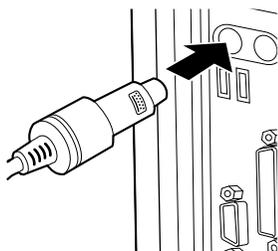
添付の電源ケーブル（ディスプレイ用）の片方のプラグを、パソコン本体のアウトレットに接続します。

### 2 電源ケーブルをディスプレイに接続します。

添付の電源ケーブル（ディスプレイ用）の片方のプラグを、ディスプレイ背面のインレットに接続します。

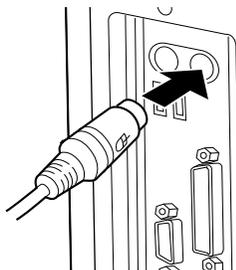
### 3 キーボードを接続します。

キーボードケーブルのコネクタに刻印されているマークの面を右側に向けて、キーボードコネクタの色とパソコン本体背面のキーボードラベルの色が合うように接続します。

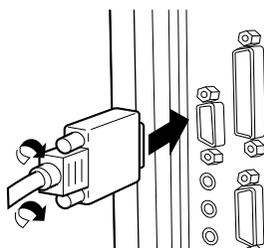


**4** マウスを接続します。

マウスケーブルのコネクタに刻印されているマークの面を右側に向けて、マウスコネクタの色とパソコン本体背面のマウスラベルの色が合うように接続します。

**5** ディスプレイケーブルをパソコン本体に接続します。

ディスプレイケーブルのコネクタを、パソコン本体背面のディスプレイコネクタに接続して、ディスプレイケーブルのコネクタのネジを締めます。

**6** LAN ケーブルを接続します。

別売のツイストペアケーブルの片方のコネクタを、パソコン本体背面の LAN コネクタに接続します。

**7** LAN ケーブルをネットワークに接続します。

別売のツイストペアケーブルの片方のコネクタを、ハブユニットのコネクタに接続します。

## 電源ケーブルの接続

---

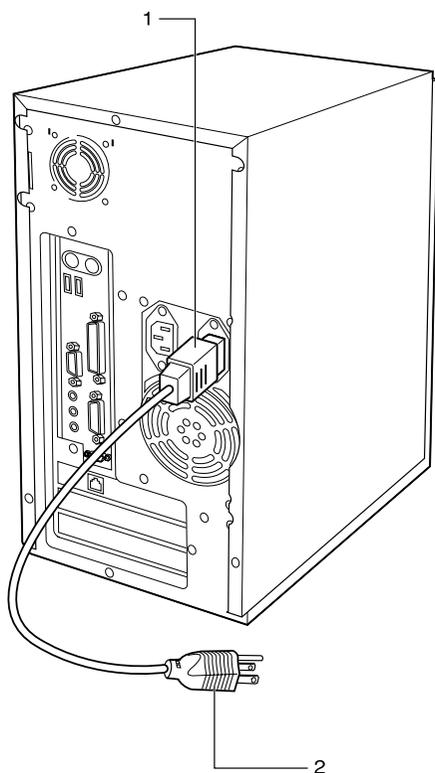
ディスプレイなどの周辺装置を接続したら、次の点に注意して電源ケーブルを接続してください。

- 濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
- 重いものを乗せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりしないでください。
- 電源ケーブルやプラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは、お使いにならないでください。
- プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、かわいた布でよく拭いてください。
- 電源ケーブルは、家庭用電源（AC100V）に接続してください。

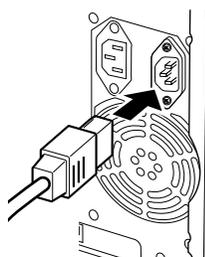
### POINT

▶ 電源ケーブルは、タコ足配線をしないでください。また、キーボードケーブルやマウスケーブルとからまないようにしてください。

- 近くで雷が起きたときは、プラグをコンセントから抜いてください。
- 2ピンのコンセントに接続する場合は、添付のアダプタプラグを使い、必ずアース線を接続してください。
- プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ずプラグを持って抜いてください。
- プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
- 長期間お使いにならないときは、安全のため必ずプラグをコンセントから抜いてください。



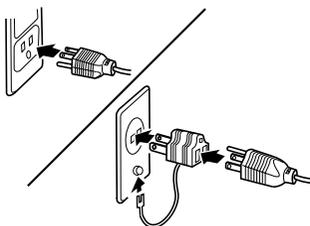
- 1** 電源ケーブルのプラグをインレットに接続します。



- 2** 電源ケーブルのプラグをコンセント（AC100V）に接続します。

片方のプラグを、コンセントに接続します。コンセントが2ピンの場合は、添付のアダプタプラグを取り付けてから、コンセントに接続します。

アダプタプラグに付いているアース線を、アース端子のネジにネジ止めします。



## 6 電源を入れる

ここでは、電源の入れかたについて説明します。

### 電源を入れるときの注意事項

- 画面に何も表示されない場合は、ディスプレイのケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- また、画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイ側で調整してください。
- 自己診断（POST）の結果、異常があればエラーメッセージ（→ P.87）が表示されます。
- ディスプレイの電源ケーブルを本パソコンに接続している場合、ディスプレイの電源は本パソコンの電源と連動して入ります。そのため、ディスプレイの電源スイッチは一度押しおけば、以後操作する必要はありません。次回からは手順 2 の本体の電源スイッチを押すだけで電源が入ります。
- 電源を切ったあと、すぐに電源を入れる場合、または電源を入れたあと、すぐに電源を切る場合は、10 秒間ほど間隔をあけてから行ってください。
- Windows の起動および終了画面、省電力機能からの復帰時など、画面表示の開始や表示モードの切り替わりのときに、一時的に画面が乱れたり、横線が見えることがありますが、故障ではありません。

### 電源の入れかた

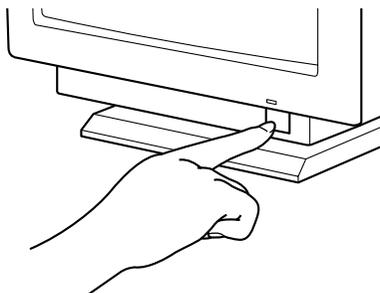
#### ⚠ 注意



- 電源を入れたら、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。故障の原因となります。

#### 1 ディスプレイなどの周辺機器の電源スイッチを押します。

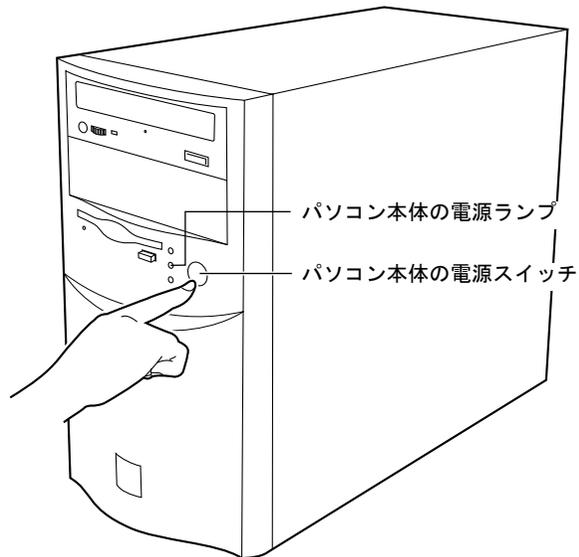
この時点では、画面には何も表示されません。



## 2 本体の電源スイッチを押します。

ディスプレイと本体の電源ランプが点灯します。

電源が入ると、ディスプレイに「FUJITSU」のロゴが表示され、しばらくするとシステムが起動されます（「FUJITSU」のロゴが表示されている間に自己診断が行われています）。



電源を入れたあとは、セットアップを行います（→『ソフトウェアガイド』参照）。

## 7 電源を切る

---

ここでは、電源の切りかたについて説明します。

### 電源を切るときの注意事項

---

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し、データを保存してください。
- 電源を切る前に、フロッピーディスクやハードディスクのアクセス表示ランプ (→ P.12) が消えていることを確認してください。点灯中に電源を切ると、作業中のデータが保存できなかったり、フロッピーディスクやハードディスク内部のデータが破壊されたりする可能性があります。
- BIOS セットアップの「詳細」－「省電力設定」－「省電力モード」を「使用しない」に設定すると、OS をシャットダウンしたあと、パソコン本体の電源が自動的に切れません (→ P.78)。
- 自己診断 (POST) 時に電源を切ることはできません。OS が完全に起動されてから、後述の手順で切ってください。
- 本パソコンが動作しなくなった場合や、BIOS セットアップで「詳細」－「省電力設定」－「電源スイッチ」：スタンバイ (→ P.80) に設定している場合、電源スイッチを 4 秒以上押し続けて電源を切ることができます。その場合、次回に限り電源スイッチ以外の手段 (LAN 経由など) で電源を入れることができなくなります。

### 電源の切りかた

---

#### Windows98 の場合

- 1** 「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックします。  
「Windows の終了」ダイアログボックスが表示されます。
- 2** 「電源を切れる状態にする」をクリックし、「OK」をクリックします。  
電源が自動的に切れます。

## WindowsNT の場合

- 1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。  
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「コンピュータをシャットダウンする」をクリックし、「はい」をクリックします。  
電源が自動的に切れます。

### POINT

- ▶ 次のように電源を切ることもできます。
  - 1 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。  
「Windows NT のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2 「シャットダウン」をクリックします。  
「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
  - 3 「シャットダウン後、電源を切る」をクリックし、「OK」をクリックします。  
電源が自動的に切れます。

## Windows2000 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。  
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。  
電源が自動的に切れます。

### POINT

- ▶ 次のように電源を切ることもできます。
  - 1 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。  
「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2 「シャットダウン」をクリックします。  
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
  - 3 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。  
電源が自動的に切れます。

## 8 リセットする

ソフトウェアをインストールした場合や、使用中のソフトウェアがなんらかの理由で動かなくなった場合などに、リセットを行います。ここでは、リセットの方法について説明します。

### POINT

- ▶ リセットすると、メモリ内のデータが消失します。リセットする前に、必要なデータは保存してください。

## リセットの方法

### Windows98 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」の順にクリックします。

「Windowsの終了」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

本パソコンがリセットされます。

### POINT

- ▶ Windows98 上のものがすべて動かなくなってしまった場合は、次のリセットを行ってください。
  - 1 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。  
「プログラムの強制終了」ダイアログボックスが表示されたら、メッセージにしたがって操作してください。

### WindowsNT の場合

- 1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。

「Windowsのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 「コンピュータを再起動する」をクリックし、「はい」をクリックします。

本パソコンがリセットされます。

### POINT

- ▶ 次のようにリセットすることもできます。
  - 1 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。  
「Windows NTのセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2 「シャットダウン」をクリックします。  
「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
  - 3 「シャットダウン後、再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。  
本パソコンがリセットされます。

## Windows2000 の場合

- 1** 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。  
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2** 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。  
本パソコンがリセットされます。

### POINT

- ▶ 次のようにリセットすることもできます。
  - 1 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。  
「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
  - 2 「シャットダウン」をクリックします。  
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
  - 3 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。  
本パソコンがリセットされます。

## 9 CD について

本パソコンには、CD-ROM ドライブが内蔵されています。ここでは、CD の取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

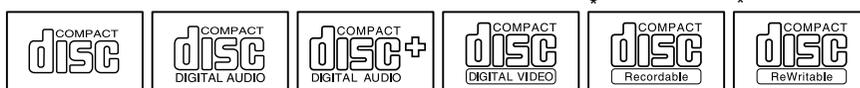
### 取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、CD をお使いになるときは、次の点に注意してください。

- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで字を書かないでください。また、ラベルなどは貼らないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものを乗せたりしないでください。
- 汚れたり、水滴がついたりした場合は、かわいた柔らかい布で中央から外側にむかって拭いてください（クリーナーなどはお使いにならないでください）。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

#### POINT

- ▶ CD-ROM は、音楽用 CD（コンパクトディスク）に、音の代わりにパソコンの情報（文字など）を保存したものです。ROM とは、「Read Only Memory」の略で、読み取り専用という意味です。本パソコンでは、CD-ROM の情報を読み取ることはできますが、書き込むことはできません（カスタムメイドオプションで CD-R/RW を選択した場合を除く）。
- ▶ 本パソコンでは、下図のマークがついた CD をご利用になれます。

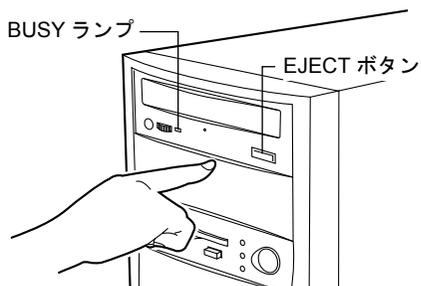


\* 印のついた CD は、CD-R/RW ドライブをお使いの場合に、書き込みができます。

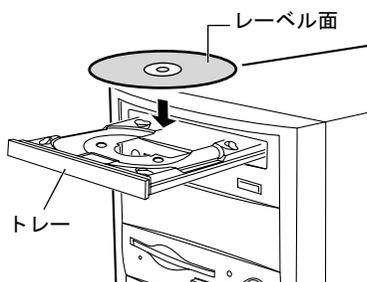
## CD をセットする／取り出す

### ■ CD のセット

- 1** EJECT ボタンを押します。  
CD をセットするトレーが出てきます。



- 2** CD のレーベル面を上にして、トレーの中央に置きます。



- 3** EJECT ボタンを押します。  
トレーが本体に入り、CD がセットされます。

### POINT

- ▶ CD をセットすると、BUSY ランプが点灯します。BUSY ランプが消えるのを確認してから、次の操作に進んでください。

### ■ CD の取り出し

CD の取り出しは、BUSY ランプが消えているのを確認してから、前述のように EJECT ボタンを押して行ってください。

## 10 フロッピーディスクについて

フロッピーディスクは、プログラムや情報を保存するための媒体です。ここでは、フロッピーディスクの取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

### 取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものを乗せたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください（ドライブにつまる原因になります）。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。

### フロッピーディスクをセットする／取り出す

#### POINT

- ▶ DOS/Vフォーマット済みのフロッピーディスクをお使いください。その他のフロッピーディスクをお使いになると、動作が保証されません。

#### ■ フロッピーディスクのセット

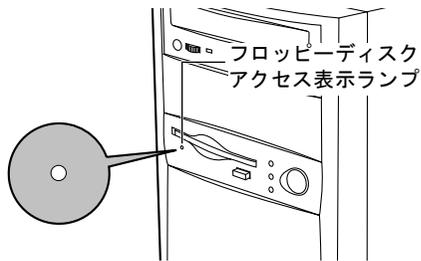
- 1 矢印のある面を上に向け、シャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。

「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛びだします。



## ■ フロッピーディスクの取り出し

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認します。



### POINT

- ▶ フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。データが破壊される可能性があります。
- 2 フロッピーディスク取り出しボタンを押します。  
フロッピーディスクが出てきます。



## 第2章

# ハードウェアについて

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）機器について、基本的な取り扱いかなどを説明しています。

1 オプションを取り付ける前に .....	40
2 本体カバーを取り外す .....	44
3 メモリを増やす .....	46
4 拡張カードを増設する .....	49
5 内蔵ハードディスクを取り付ける .....	52
6 その他のオプションを取り付ける .....	58

# 1 オプションを取り付ける前に

ここでは、オプションの概要について説明します。

## オプションとは

本パソコンは、さまざまなオプションを接続・内蔵して機能を拡張できます。オプションの中には、機種によってはお使いになれないものがあります。ご購入の前に「システム構成図」をご覧ください、そのオプションが使えるかどうかを確認してください。

### ⚠ 警告

感電



- オプション機器を接続する場合には、弊社推奨品以外の機器は接続しないでください。感電・火災または故障の原因となります。

### ⚠ 注意

けが



- オプション類の取り付け、取り外しを行う際は、マニュアルに指定された場所以外のネジは、外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあり、また、故障の原因となることがあります。

故障



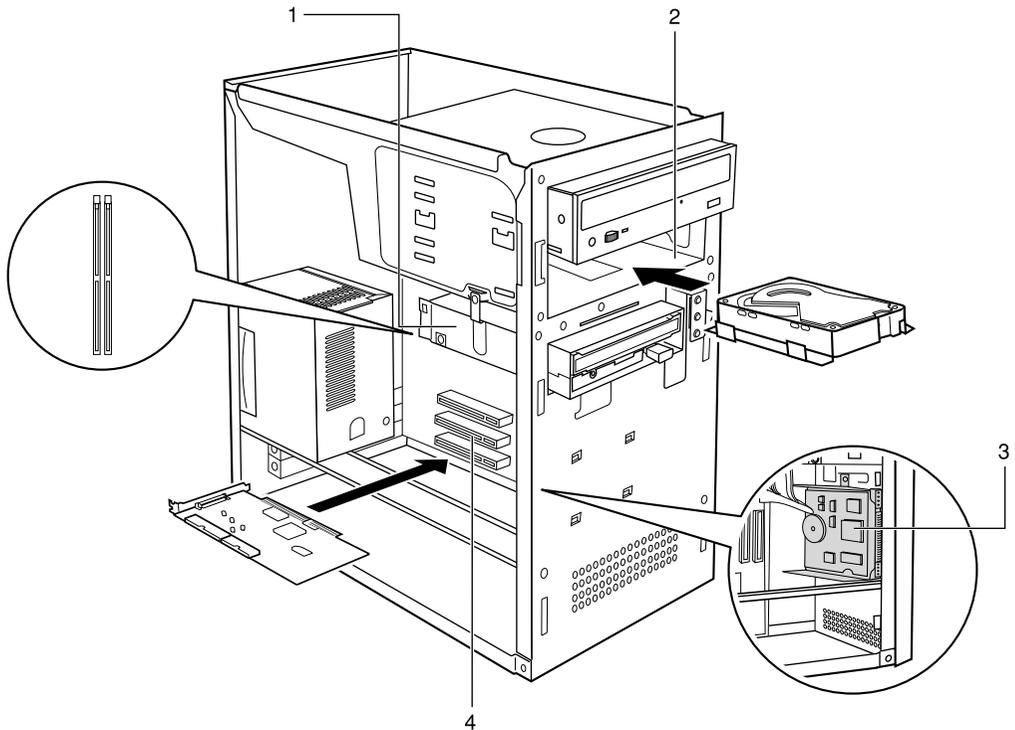
- ケーブル類の接続は本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態でお使いになると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。

## 取り扱い上の注意

内蔵オプションを取り付けるときは、次の点に注意してください。

- 作業を行う前に、パソコン本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源を切った直後は、パソコン内部の部品やユニットが熱くなっています。内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと 10 分程待ってから、作業を始めてください。
- 電源ユニット（パソコン内部の背面側にある箱の形状をした装置）は分解しないでください。
- 内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。
- 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度金属質の物に手を触れて静電気を放電してください。
- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。
- 弊社純正品以外のオプションの取り付けや分解を行った場合は、保証の対象外となります。

## オプションの取り付け位置



### 1 メモリスロット

メモリを取り付けます。

メモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、パソコンの処理能力があがります。

### 2 フロントアクセスベイ

内蔵フロッピーディスクドライブ、内蔵 SCSI オプション(光磁気ディスクドライブなど)、内蔵ハードディスク (IDE 規格) を取り付けます。

フロントアクセスベイオプションは、外付けタイプの装置と異なり、電源をパソコン本体からとるため、コンセントを必要としません。また、省スペースというメリットもあります。

### 3 内蔵ハードディスクベイ

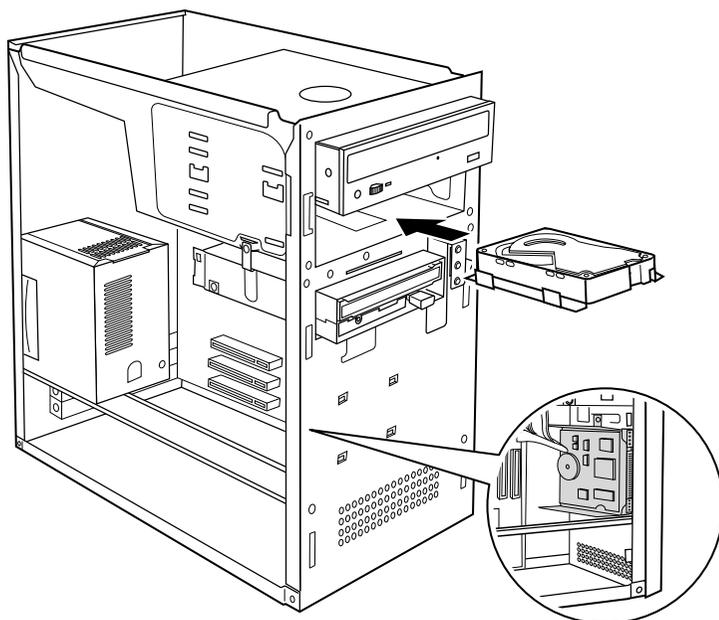
内蔵ハードディスク (IDE 規格) を取り付けます。

### 4 拡張カードスロット

拡張カードを取り付けます。たとえば、SCSI (スカジー) カードを取り付ければ、SCSI 規格のハードディスクや光磁気ディスクドライブを取り付けられるようになります。

## フロントアクセスベイオプションについて

内蔵ハードディスク、光磁気ディスクドライブ、CD-ROM ドライブ、フロッピーディスクドライブなどのフロントアクセスベイオプションを取り付ける方法を説明します。フロントアクセスベイオプションは外付けタイプの装置と異なり、電源をパソコン本体からとるためコンセントを必要としません。また、省スペースというメリットもあります。



### 取り付けるときの注意事項

- ご購入後、フロントアクセスベイオプションを取り付ける場合は、セットアップを行ってから、一度電源を切ったあとに取り付けを行ってください(→『ソフトウェアガイド』参照)。
- Ultra DMA/33をサポートしている内蔵ハードディスクユニット (FMV-ID13H1、FMV-ID84G2 など) は、Windows98/2000 および WindowsNT 4.0 Service Pack6a をお使いの場合、Ultra DMA/33 に設定できます。DMA の初期設定は ON になっています。  
購入されたハードディスクが Ultra DMA/33 をサポートしているかどうかは、ハードディスクの取扱説明書をご覧ください。  
Ultra DMA/33 をサポートしていないハードディスクユニットを接続するときは、必ず DMA の設定を OFF または無効の状態でお使いください。誤って DMA の設定を ON または有効にして使うと、正常に動作せず、データを損傷することがあります。
- ATAPI 規格の光磁気ディスクドライブは、1 台だけ取り付けることができます。取り付ける場合は、セカンダリ IDE に接続してください。
- 本パソコンでは、セカンダリ IDE の DMA をサポートしていません。DMA を有効にすると、故障、データ破壊の原因となります。

## 警告

感電



- フロントアクセスベイオプションの取り付けや取り外しを行う場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電の原因となります。

感電



- フロントアクセスベイオプションを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。  
感電・火災または故障の原因となることがあります。

## 注意

けが



- フロントアクセスベイオプションの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジは外さないでください。  
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

けが



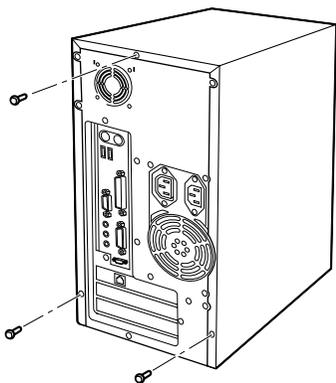
- プリント板上の部品には、指定された場所以外には手を触れないでください。  
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

## 2 本体カバーを取り外す

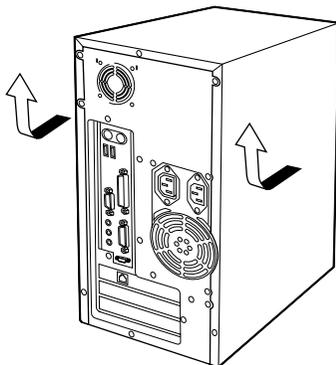
### 本体カバー／フロントパネルを取り外す

内蔵オプションを取り付けるときは、本体カバーを取り外して、内部が見える状態にします。フロントアクセスベイオプションを取り付けるときは、さらに、フロントパネルを取り外します。取り外し方法は、次のとおりです。

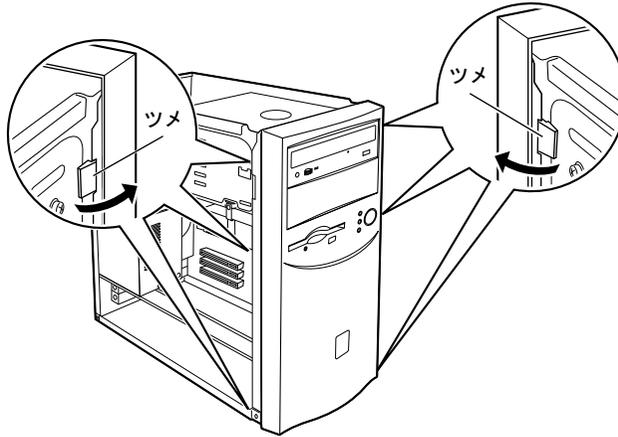
- 1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 パソコン本体背面のネジ（3ヶ所）を外します。



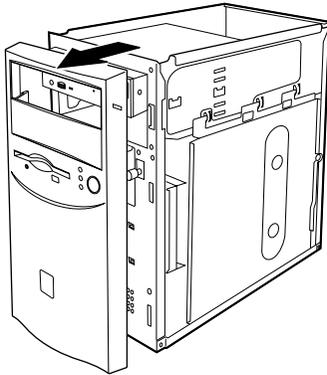
- 3 本体カバーを矢印の方向に取り外します。  
パソコン本体背面側に向けてスライドさせたあと、持ち上げてください。



- 4** フロントパネルの両側にあるツメ（片側3ヶ所ずつ計6ヶ所）を外します。  
下のツメから外すと、フロントパネルが取り外しやすくなります。



- 5** フロントパネルを取り外します。



**POINT**

- ▶ 本体カバー、フロントパネルは、必要に応じて取り外してください。
- ▶ 取り付けは、上記と逆の手順で行ってください。

## 3 メモリを増やす

メモリの取り付けや取り外し方法を説明します。本パソコンのメインメモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、パソコンの処理能力があがります。

### POINT

- ▶ ご購入後、メモリを取り付ける場合は、セットアップを行ってから、一度電源を切ったあとに取り付けを行ってください（→『ソフトウェアガイド』参照）。

### 警告



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。
- メモリを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。感電・火災または故障の原因となります。

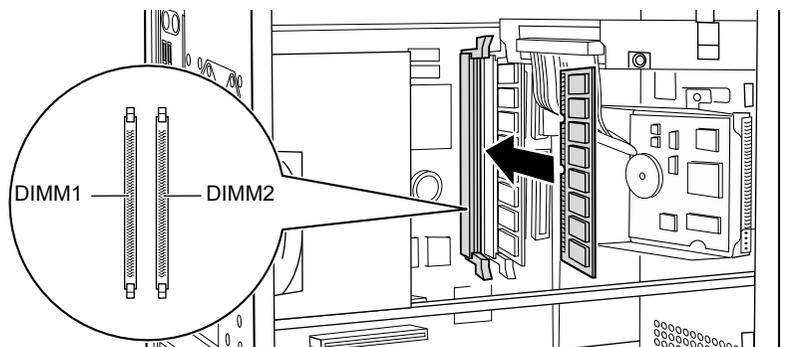
### 注意



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジを外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定された場所以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

## メモリの取り付け場所

メモリはパソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。



## 取り付けられるメモリ

本パソコンには、最大で 256MB (128MB × 2) のメモリを取り付けることができます。DIMM2 には、標準でメモリが搭載されています。

本パソコンにメモリを増設する場合は、弊社純正品の「64bit SDRAM DIMM、ECC なし、100MH z 対応品」をお使いください。66MH z 対応のメモリでは正常に動作しません。

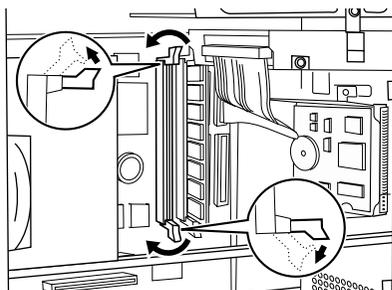
### POINT

- ▶ 合計で 128MB までのメモリに対してのみ、2次キャッシュが有効になっています。そのため、メモリを追加するとお使いになるアプリケーションによっては本パソコンの処理能力が低下することがあります。

## メモリを取り付ける／取り外す

### メモリを取り付ける

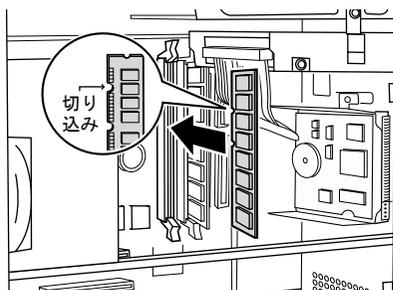
- 1 本体カバーを取り外します。
- 2 スロットの両側のフックを外側に開きます。



- 3 メモリをスロットに差し込みます。

メモリの切り欠け部分とスロットの切り欠け部分を合わせるようにして、スロットに垂直に差し込みます。

正しく差し込まれると、スロットの両側のフックが起きます。このとき、メモリが固定されているか確認してください。



**POINT**

- ▶ メモリをスロットに差し込む場合は、本パソコンが倒れないように、本パソコンを支えながら差し込んでください。パソコン本体を横置きにすると、作業しやすくなります。

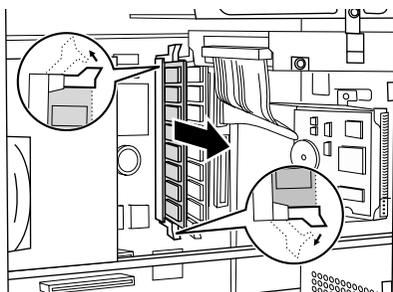
**4** 本体カバーを取り付けます。

## メモリを取り外す

**1** 本体カバーを取り外します。

**2** スロットの両側のフックを外側へ開いて、メモリを抜きます。

メモリを落とさないようにしてください。



**POINT**

- ▶ フックを勢いよく開くと、メモリが飛び抜け、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。

**3** 本体カバーを取り付けます。

## 4 拡張カードを増設する

拡張カードを取り付ける方法を説明します。拡張カードは、本パソコンの機能を拡張します。

### POINT

- ▶ ご購入後、拡張カードを取り付ける場合は、セットアップを行ってから、一度電源を切ったあとに取り付けを行ってください（→『ソフトウェアガイド』参照）。

### 警告



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。



- 拡張カードを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。感電・火災または故障の原因となることがあります。

### 注意



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- プリント板上の部品には、指定された場所以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

拡張カードを取り付けるには、「リソース」を設定する必要があります。

パソコン内部のフロッピーディスクドライブやハードディスクドライブなどは、CPU やメモリなどとデータをやり取りするときに、あらかじめ装置ごとに決められている経路を使います。これらの経路には、I/O アドレス、DMA チャンネル、割り込み要求（IRQ）といった種類があり、これらを一般的に「リソース」と呼んでいます。

また、拡張カードには、PCI バス用拡張カードと ISA バス用拡張カードの 2 種類があります。

PCI バス用拡張カードは、「プラグアンドプレイ対応カード」です。

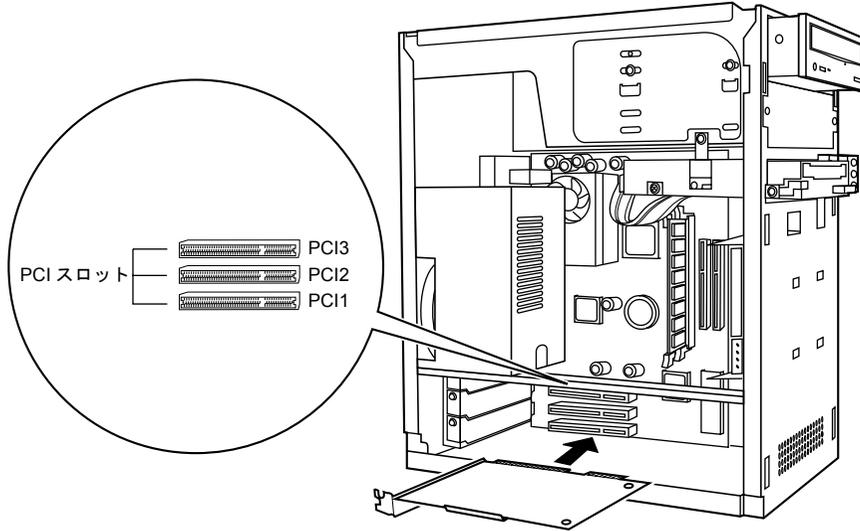
ISA バス用拡張カードは、本パソコンではお使いになれません。

### POINT

- ▶ お使いになる拡張カードによっては、リソースの変更が必要となる場合があります。拡張カードのマニュアルをご覧ください。

## 取りつけられる拡張カード

本パソコンには、PCI規格のスロットがあります。PCIカードはPCI1～3のスロットに取り付けてください。PCI3スロットには標準でLANカードが取り付けられています。

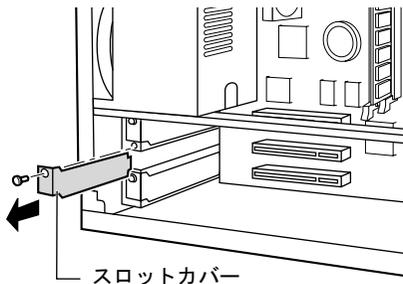


## 拡張カードを取り付ける

### POINT

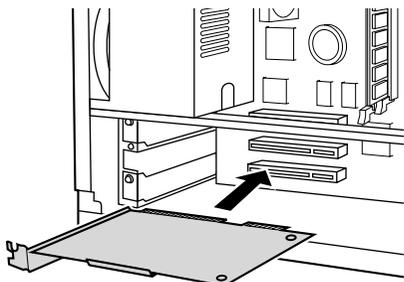
- ▶ Windows98/2000モデルにディスプレイカードを取り付ける場合、「[ディスプレイカードの取り付け \(Windows98/2000モデル\)](#)」(→ P.109)をご覧ください。ディスプレイカードを取り付ける前に「ATI Display Driver」を削除してください。

- 1 本体カバーを取り外します。
- 2 スロットカバーを取り外します。  
ネジ(1ヶ所)を外し、スロットカバーを取り外します。

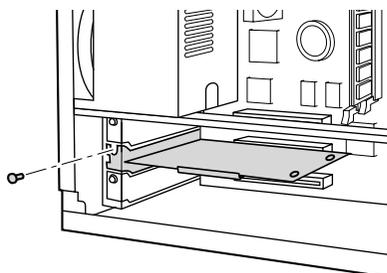


**3** 拡張カードをコネクタに差し込みます。

拡張カードをコネクタにしっかりと差し込みます。

**4** ネジで固定します。

手順2で取り外したネジ（1ヶ所）で拡張カードを固定します。

**5** 本体カバーを取り付けます。**POINT**

- ▶ 取り外したスロットカバーは大切に保管しておいてください。
- ▶ 取り外しは、上記と逆の手順で行ってください。

## 5 内蔵ハードディスクを取り付ける

標準搭載されている内蔵ハードディスク（1台目）を、より大容量のものに交換したり、2台目の内蔵ハードディスクを取り付けたりする方法を説明します。

### ハードディスク取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、ハードディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- ハードディスクの内部では、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きを行っています。非常にデリケートな装置ですので、電源が入ったままの状態では本パソコンを持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。
- 極端に温度変化が激しい場所での使用および保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないでください。
- 衝撃や振動の加わる場所での使用および保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所での使用および保管は避けてください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでの使用および保管は避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。

#### POINT

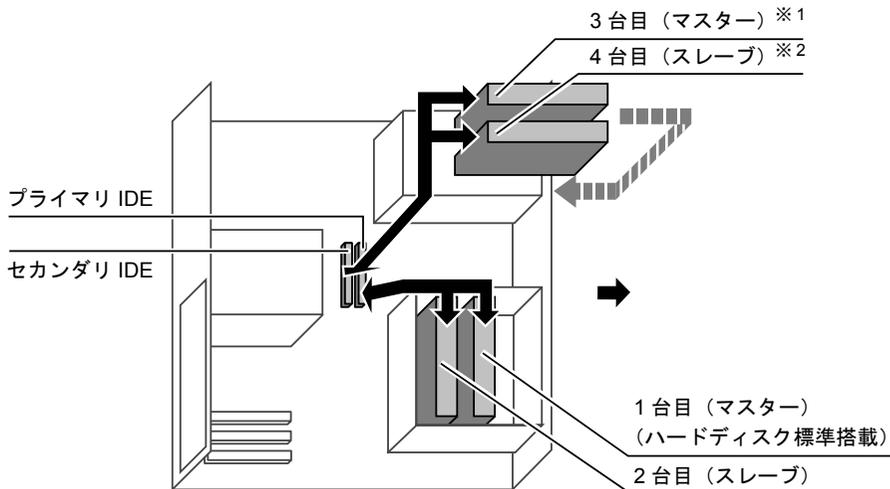
- ▶ 誤った取り扱いをすると、ディスク内のデータが破壊される場合があります。重要なデータは必ずバックアップを取っておいてください。
- ▶ 同一タイプのハードディスクでも若干の容量差があります。ハードディスク単位ではなくファイル単位、または区画単位でのバックアップをお勧めします。

### マスターとスレーブについて

本パソコンは、IDE規格のハードディスクを最高4台内蔵できます。4台のうち1台目および2台目は、内蔵ハードディスクベイに取り付けます。残りの3台目および4台目は、フロントアクセスベイに取り付けます（4台目を接続する場合は、CD-ROM/CD-R/RWドライブを取り外します）。

このマスターとスレーブの設定は、内蔵ハードディスクをフラットケーブルにどのように接続するかによって決定されます（このような設定方法を、ケーブルセレクトといいます）。次にある図のフラットケーブルのマスターのコネクタをハードディスクに接続すると、マスターの設定になり、スレーブのコネクタをハードディスクに接続すると、スレーブの設定になります。ケーブルセレクトを行うためには、内蔵ハードディスクのジャンプスイッチがケーブルセレクトの設定になっている必要があります。

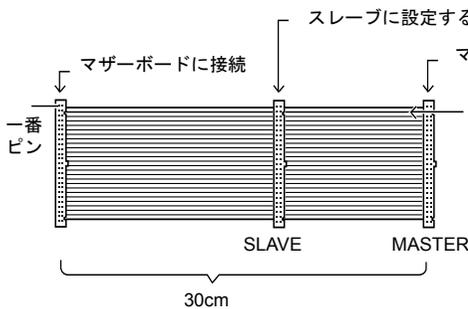
また、ケーブルセレクトができない内蔵ハードディスクを接続する場合に、マスターに接続するときは、ハードディスクの設定をマスターの設定に、スレーブに接続するときは、ハードディスクの設定をスレーブの設定にしてください。



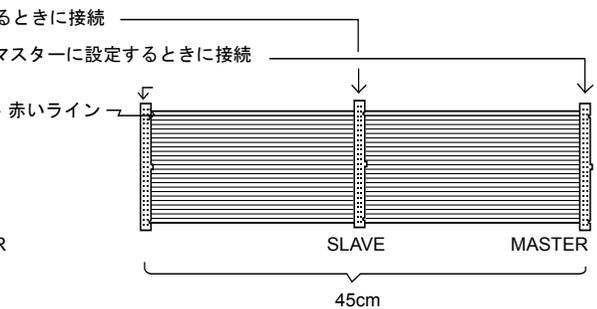
※1: CD-ROM ドライブを標準搭載、ただし、カスタムメイドで光磁気ディスクを選択している場合は、光磁気ディスクドライブ搭載

※2: カスタムメイドで光磁気ディスクを選択している場合、CD-ROM ドライブ搭載

< プライマリ IDE 用ケーブル >



< セカンダリ IDE 用ケーブル >



## POINT

- ▶ 本パソコンでは、プライマリ IDE に接続するケーブルとセカンダリ IDE に接続するケーブルとは、長さが異なります。プライマリ IDE に接続するときは短いケーブル (30cm) を、セカンダリ IDE に接続するときは、長いケーブル (45cm) をお使いください。
- ▶ 標準搭載されている内蔵ハードディスクおよび CD-ROM の出荷時の設定は、ケーブルセレクトに設定されています。
- ▶ OS を起動させるハードディスクは、必ずプライマリ IDE コネクタにマスターとして接続してください。スレーブとして接続したり、セカンダリ IDE コネクタに接続したりすると、OS を起動できない場合があります。
- ▶ 「マスター」、「スレーブ」の組み合わせについては、「[5 インチフロントアクセスベイに取り付ける](#)」(→ P.58) をご覧ください。

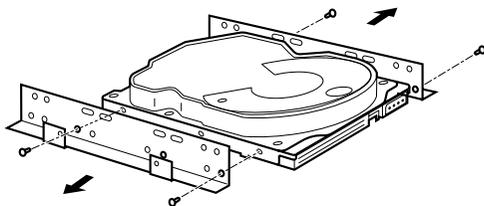
## 内蔵ハードディスクベイに取り付ける

**1** ジャンプスイッチの設定を行います。

1台目を取り付ける場合は、内蔵ハードディスクに添付のマニュアルをご覧になり、ジャンプスイッチがマスター、またはケーブルセレクトに設定されていることを確認してください。2台目を取り付ける場合は、ジャンプスイッチをスレーブ、またはケーブルセレクトに設定してください。

**2** 交換する（または取り付ける）内蔵ハードディスクの両側に金具がついている場合は、金具を取り外します。

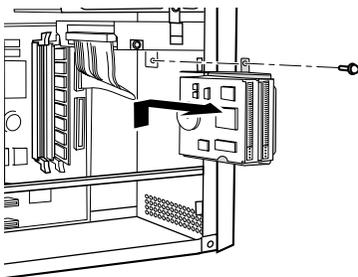
ネジ（4ヶ所）を外して、取り外します。



**3** 本体カバーを取り外します。

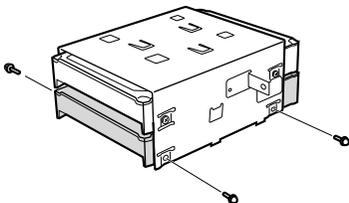
**4** パソコン本体から取付金具を取り外します。

ネジ（1ヶ所）を外して、取り外します。



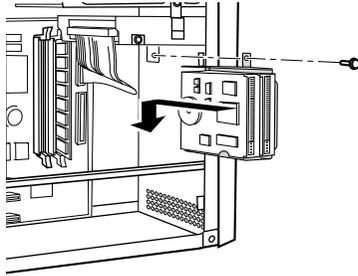
**5** 内蔵ハードディスクを交換します（または取り付けます）。

取り外した取付金具の側面のネジ（4ヶ所）を外し、交換する（または取り付ける）内蔵ハードディスクを取付金具に取り付けます。



## 6 内蔵ハードディスクをパソコン本体に取り付けます。

手順4で外したネジ（1ヶ所）で固定します。

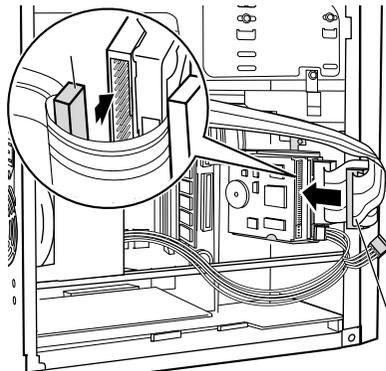


## 7 フラットケーブルを接続します。

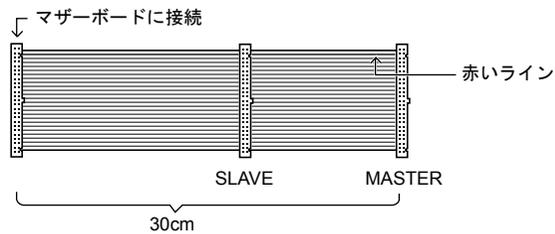
下図のプライマリ IDE 用ケーブルの「マザーボードに接続」のコンネクタがパソコン本体内部のプライマリ IDE コンネクタに接続されています。

1 台目を取り付ける場合は、プライマリ IDE 用ケーブルの MASTER のコンネクタを、内蔵ハードディスクのコンネクタに接続します。

2 台目を取り付ける場合は、1 台目のハードディスクに接続したプライマリ IDE 用ケーブルの中間のコンネクタ（下図の SLAVE）を、内蔵ハードディスクのコンネクタに接続します。

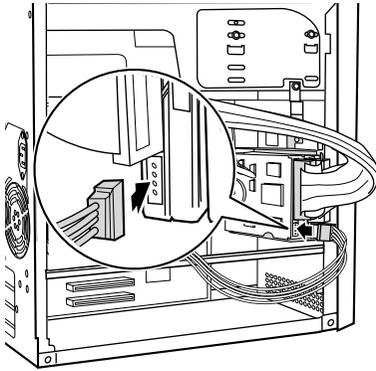


< プライマリ IDE 用ケーブル >



## 8 電源ケーブルを接続します。

パソコン本体内部の電源ケーブルのうち使っていない1本を、取り付けした内蔵ハードディスクに接続します。



## 9 本体カバーを取り付けます。

## 10 BIOS セットアップで設定を行います。

1 台目を取り付けた場合は、BIOS セットアップの「メイン」－「IDE プライマリマスター」で、2 台目を取り付けた場合は「IDE プライマリスレーブ」で、取り付けした内蔵ハードディスクのタイプを設定します（通常は「自動」に設定）（→ P.69）。

また、ハードディスクを取り付けたあとは、BIOS セットアップの「詳細」－「BIOS 設定」－「起動デバイスの優先順位」（→ P.72）で起動する順番を必ず確認してください。

### POINT

- ▶ 取り外しは、取り付けと逆の手順で行ってください。
- ▶ 1 台目の内蔵ハードディスクを取り付けたあとは、添付の「リカバリ CD-ROM」を使用して、区画の設定を行い、それぞれの OS をインストールしてください（→『ソフトウェアガイド』参照）。
- ▶ 2 台目の内蔵ハードディスクを取り付けたあとは、次の設定を行ってください。
  - Windows98 モデルの場合  
ハードディスクを取り付けた場合は、MS-DOS プロンプトでFDISKコマンドを使って、区画の設定を行ってください。区画の設定後、取り付けしたハードディスクを「マイコンピュータ」でフォーマットしてください。
  - WindowsNT モデルの場合  
「ディスクアドミニストレータ」で区画の設定をし、ハードディスクをフォーマットしてください。  
「ディスクアドミニストレータ」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール（共通）」の順で表示できます。
  - Windows2000 モデルの場合  
「コントロールパネル」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」を起動し、「ディスクの管理」でハードディスクの区画を設定してから、フォーマットしてください。

## フロントアクセスベイに取り付ける

---

ハードディスクをフロントアクセスベイに取り付けたい場合は、「[その他のオプションを取り付ける](#)」(→ P.58) をご覧ください。

### POINT

- ▶ 取り外しは、取り付けと逆の手順で行ってください。
- ▶ 1台目の内蔵ハードディスクを取り付けたあとは、添付の「リカバリ CD-ROM」を使用して、区画の設定を行い、それぞれの OS をインストールしてください(→『ソフトウェアガイド』参照)。
- ▶ 2台目の内蔵ハードディスクを取り付けたあとは、次の設定を行ってください。
  - Windows98 モデルの場合  
ハードディスクを取り付けた場合は、MS-DOS プロンプトで FDISK コマンドを使って、区画の設定を行ってください。区画の設定後、取り付けたハードディスクを「マイコンピュータ」でフォーマットしてください。
  - WindowsNT モデルの場合  
「ディスクアドミニストレータ」で区画の設定をし、ハードディスクをフォーマットしてください。  
「ディスクアドミニストレータ」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール (共通)」の順で表示できます。
  - Windows2000 モデルの場合  
「コントロールパネル」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」を起動し、「ディスクの管理」でハードディスクの区画を設定してから、フォーマットしてください。

## 6 その他のオプションを取り付ける

### 5 インチフロントアクセスベイに取り付ける

内蔵ハードディスク、CD-ROM ドライブなどのフロントアクセスベイオプションを取り付ける方法は、次のとおりです。

#### POINT

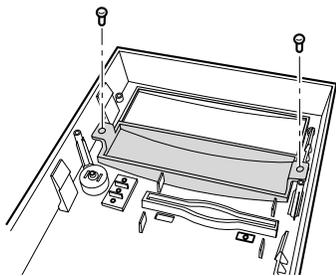
- ▶ 内蔵 SCSI オプションを取り付ける場合は、SCSI カードが必要です。あらかじめ取り付けておいてください。
- ▶ 内蔵 SCSI オプションを取り付ける場合、SCSI ID を設定する必要があります。オプションに添付のマニュアルをご覧になり、他の SCSI オプションと重複しない SCSI ID を設定しておいてください。
- ▶ 内蔵 IDE オプションを取り付ける場合、あらかじめマスター／スレーブ／ケーブルセレクトの設定を行ってください。

**1** 本体カバー、フロントパネルを取り外します。

**2** フロントパネルからかくし板を取り外します。

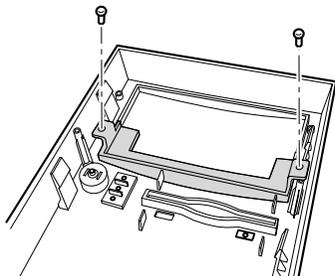
かくし板の両端にあるネジ（2ヶ所）を取り外します。

内蔵ハードディスクを取り付ける場合、かくし板を取り外す必要はありません。



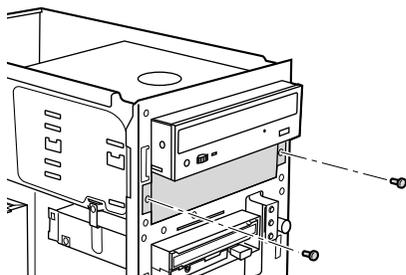
#### POINT

- ▶ 光磁気ディスクドライブを取り付ける場合は、添付のフロントアクセスベイパネルをネジでフロントパネルに取り付けてください。



### 3 パソコン本体からかくし板を取り外します。

ネジ（2ヶ所）を外して取り外します。

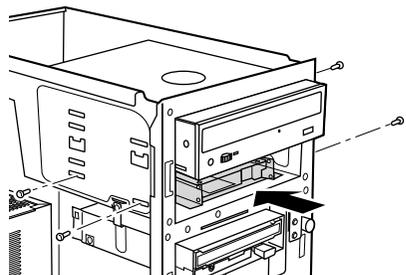


### 4 フロントアクセスベイオプションをパソコン本体に取り付けます。

内蔵ハードディスク以外のフロントアクセスベイオプションは、オプションの前面がフロントパネルの面と揃う位置に取り付けます。

位置が決まったら、ネジ（4ヶ所）で固定します。

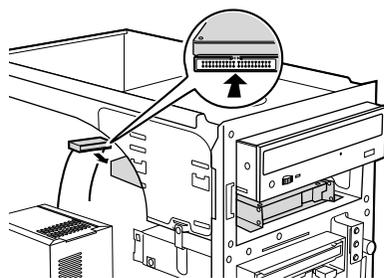
内蔵ハードディスクを取り付けるときは、再度、かくし板を取り付けてください。



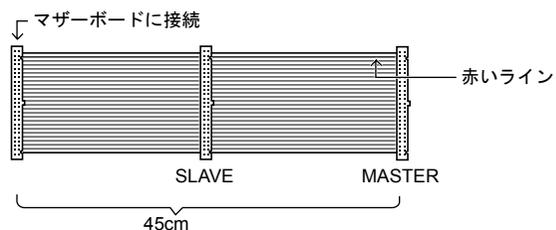
### 5 フラットケーブルを接続します。

- ・ IDE 規格の内蔵オプションを取り付ける場合

下図のセカンダリ IDE 用ケーブルの「マザーボードに接続」のコネクタが、パソコン本体内部のセカンダリ IDE コネクタに接続されています。



<セカンダリ IDE 用ケーブル>



マスターとスレーブのコネクタには、次の組み合わせでオプションを接続してください。

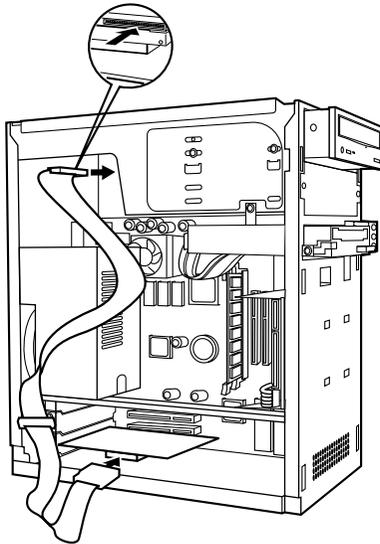
	マスター	スレーブ
CD-ROM のみ	CD-ROM※ <sup>1</sup>	—
ハードディスクのみ	ハードディスク	—
光磁気ディスクのみ	光磁気ディスク	—
ハードディスク + CD-ROM	ハードディスク	CD-ROM※ <sup>1</sup>
ハードディスク + 光磁気ディスク	ハードディスク	光磁気ディスク
ハードディスク 2 台	ハードディスク	ハードディスク
光磁気ディスク + CD-ROM	光磁気ディスク	CD-ROM※ <sup>1</sup>

※1：CD-R/RW ドライブ含む。

**POINT**

- ▶ 本パソコンでは、セカンダリ IDE の DMA をサポートしていません。セカンダリ IDE は DMA を無効のままお使いください。
- SCSI 規格の内蔵オプションを取り付ける場合

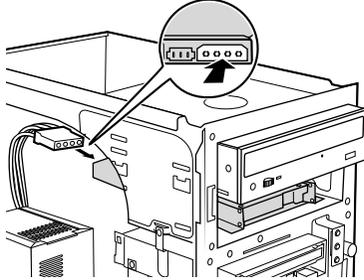
SCSI カード用フラットケーブルの片方のコネクタを、内蔵 SCSI オプションのコネクタに接続します。もう片方のコネクタを、拡張スロットに取り付けた SCSI カードのコネクタに接続します。



## 6 電源ケーブルを接続します。

使っていない電源ケーブルを取り付けた内蔵オプションのコネクタに接続します。

3.5 インチフロッピーディスクドライブを取り付けた場合は、ドライブに添付の電源変換ケーブルを使って接続します。



## 7 フロントパネル、本体カバーを取り付けます。

## 8 BIOS セットアップで設定を行います。

IDE 規格の内蔵オプションを取り付けた場合、BIOS セットアップの「メイン」－「IDE セカンダリマスター」、「IDE セカンダリスレーブ」でタイプを設定します（通常は「自動」に設定）（→ P.69）。また、ハードディスクを取り付けたあとは、BIOS セットアップの「詳細」－「BIOS 設定」－「起動デバイスの優先順位」で起動する順番を必ず確認してください（→ P.72）。

### POINT

- ▶ 取り外しは、取り付けと逆の手順で行ってください。
- ▶ 内蔵SCSIオプションを取り付けたあとは、SCSIカードに添付のドライバをインストールしてください。詳細は、SCSIカードに添付のマニュアルをご覧ください。
- ▶ ハードディスクや光磁気ディスクドライブを取り付けたあとは、次の設定を行ってください。
  - Windows98 モデルの場合
 

ハードディスクを取り付けた場合は、MS-DOS プロンプトでFDISKコマンドを使って、区画の設定を行ってください。区画の設定後、取り付けしたハードディスクを「マイコンピュータ」でフォーマットしてください。

また、光磁気ディスクドライブを取り付けた場合は、「マイコンピュータ」でフォーマットしてください。なお、Windows98 でフォーマットした光磁気ディスクは、その他の OS (MS-DOS や WindowsNT など) では、お使いになれない場合があります。
  - WindowsNT モデルの場合
 

ハードディスクを取り付けた場合、「ディスクアドミニストレータ」で区画を設定し、フォーマットしてください。「ディスクアドミニストレータ」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」の順で表示できます。

光磁気ディスクを取り付けた場合、「MO フォーマッタ」で区画を設定し、フォーマットしてください。「MO フォーマッタ」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「MOWare」の順で表示できます。

- Windows2000 モデルの場合  
ハードディスクを取り付けた場合、「コントロールパネル」－「管理ツール」－「コンピュータの管理」を起動し、「ディスクの管理」でハードディスクの区画を設定してから、フォーマットしてください。  
光磁気ディスクを取り付けた場合、「MO ディスクフォーマッタ」でフォーマットしてください。「MO ディスクフォーマッタ」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「MO Utilities」の順で表示できます。
- ▶ 取り外した金具などは、大切に保管しておいてください。

# 3

## 第 3 章

# BIOS セットアップ

本パソコンの日時や省電力モードの設定に必要な  
となる、BIOS セットアップというプログラムに  
ついて説明しています。また、本パソコンのデー  
タを守るためのパスワードの設定方法について  
も説明しています。

1	BIOS セットアップとは .....	64
2	BIOS セットアップの操作のしかた .....	65
3	ご購入時の設定に戻す .....	68
4	メニュー詳細 .....	69
5	BIOS のパスワード機能を使う .....	84
6	BIOS が表示するメッセージ一覧 .....	87

# 1 BIOS セットアップとは

ここでは、BIOS セットアップの概要について説明します。

BIOS セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本パソコンでは、必要最小限の設定はご購入時にすでに行われています。

次の場合のみ設定を行う必要があります。

- フロッピーディスクドライブなどの記憶装置を取り外したとき、または取り付けたとき
- 特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- シリアルポートなどの働きを設定するとき
- 自己診断中にメッセージが表示されたとき
- 他の OS を使うとき

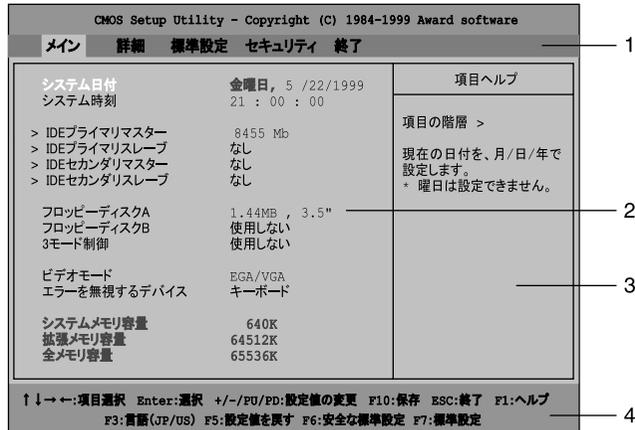
## POINT

- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、バッテリーによって記録した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示される場合は、この CMOS RAM に設定内容が保存されていない可能性があります。バッテリーの消耗が考えられますので、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

## 2 BIOS セットアップの操作のしかた

### BIOS セットアップを起動する

- 1 作業を終了してデータを保存します。
- 2 本パソコンを再起動します。
  - Windows98 モデルの場合は、「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックし、「再起動する」をクリックして、「OK」をクリックします。
  - WindowsNT モデルの場合は、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「コンピュータを再起動する」をクリックして、「はい」をクリックします。
  - Windows2000 モデルの場合は、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して、「OK」をクリックします。
- 3 画面下に「<TAB> : 自己診断画面 <F2> : BIOS セットアップ <F12> : 起動メニュー」と表示されたら、【F2】キーを押します。  
BIOS セットアップ画面が表示されます。



- 1 メニューバー  
メニューの名称が表示されます。
- 2 設定フィールド  
各メニューで設定する、項目と設定値が表示されます。
- 3 ヘルプフィールド  
カーソルを合わせた項目の内容が表示されます。
- 4 キー一覧  
設定時に使うキーの一覧です。

## 設定を変更する

BIOS セットアップは、キーボードを使ってすべての操作を行います。

- 1** 【←】【→】キーを押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。
- 2** 【↑】【↓】キーを押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。
  - ▶の付いている項目はサブメニューがあることを表示します。
  - ▶の付いている項目にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。
- 3** 【+】【-】キー（テンキー）または【Page Up】【Page Down】キーを押して、設定を変更します。
 

さらに他のメニューの設定を変更したいときは、手順1から繰り返します。

なお、サブメニューを表示していた場合は、【Esc】キーを押すと1つ前の画面に戻ります。

BIOS セットアップを終了するときには、「BIOS セットアップを終了する」(→ P.67)をご覧ください。

### 各キーの役割

BIOS セットアップで使うキーの役割は次のとおりです。

キー	役割
【F1】キー	一般ヘルプ画面を表示します。一般ヘルプ画面は、BIOS セットアップの操作で使用するキーについて説明しています（英語のみ）。ヘルプを閉じるには、Esc キーを押します。
【F3】キー	言語（Language）を日本語、または英語に切り替えます。
【F5】キー	現在表示されているメニューの設定だけを、前回保存した値に戻します。
【F6】キー	現在表示されているメニューの設定だけを、システムが安全に起動する設定値に変更します。
【F7】キー	現在表示されているメニューの設定だけを、購入時の状態（標準設定値）に戻します。
【F10】キー	変更した内容を保存して、BIOS セットアップを終了します。
【Esc】キー	前画面に戻ります。各メニューが表示されているときは、メインメニューに戻ります。メインメニューが表示されているときは、BIOS セットアップの終了メッセージを表示します。

キー	役割
【Enter】キー	▶が付いている項目のサブメニューの表示、設定値の一覧の表示、設定値の選択を行います。
【↑】【↓】【→】【←】キー	メニュー画面の切り替えや、項目間のカーソル移動に使用します。
【PageUp】 【PageDown】 【+】【-】キー	設定値を変更します。

## BIOS セットアップを終了する

- 1** 【←】【→】キーを押して、「終了」メニューにカーソルを合わせます。  
 なお、サブメニューを表示していた場合は、【ESC】キーを押してメニューバーに「終了」メニューが表示されてから、同じ操作を行います。
- 2** 【↑】【↓】キーを押して、終了方法を選び、【Enter】キーを押します。  
 終了方法については、「終了メニュー」(→ P.83)をご覧ください。
- 3** メッセージの後に「Y」が表示されていることを確認してから、【Enter】キーを押します。もし、「N」が表示されているときは、【Y】キーを押してから【Enter】キーを押します。  
 BIOS セットアップが終了します。

## 3 ご購入時の設定に戻す

---

- 1** 【←】【→】キーを押して、「標準設定」メニューにカーソルを合わせます。
- 2** 【↑】【↓】キーを押して、「標準設定値を読み込む」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
- 3** 【Y】キーを押し、【Enter】キーを押します。

## 4 メニュー詳細

ここでは、BIOS セットアップの個々のメニューについて説明します。

### 重要

- ▶ 各設定の標準設定値をアンダーラインで表記しています。
- ▶ お使いになるモデルによっては、ご購入時の設定が標準設定値と異なる場合があります。この場合、ご購入時の設定を「(初期値: Windows ××モデル)」で表記しています。

## メインメニュー

メインメニューでは、デバイスや日時の設定などを行います。

### 設定項目の詳細

- **システム日付**  
年月日を設定します。キーボードから数値を入力します。【Tab】キー、【Enter】キーで右の項目に移動します。
- **システム時刻**  
時刻を設定します。キーボードから数値を入力します。【Tab】キー、【Enter】キーで右の項目に移動します。

### POINT

- ▶ システム時刻、システム日付は一度合わせれば電源を入れるたびに設定する必要はありません。
  - ▶ 入力した数値を修正するときは、【Back space】キーを押して設定値を消し、そのあと入力してください。
- **IDE プライマリマスター／スレーブ、IDE セカンダリマスター／スレーブメニュー**  
サブメニューを使って、プライマリ IDE やセカンダリ IDE に取りつけたハードディスクの、タイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。
    - **ハードディスクの自動検出**…【Enter】キーを押すとハードディスクの自動検出を行います。ハードディスク以外は検出されません。
    - **タイプ**…IDE デバイスのタイプを設定します。「自動」以外を選択すると、「シリンダ数」、「ヘッド数」、「セクタ数」を手動で設定することができます。
      - ・ なし：IDE デバイスを使いません。
      - ・ 自動：IDE デバイスのタイプを自動的に設定します。
      - ・ 手動：IDE デバイスのタイプを手動で設定します。

- **最大容量**…ハードディスクが取り付けられている場合に、ハードディスクドライブの最大容量を表示します。

#### POINT

▶ この項目のディスク容量記載は、1MB=1024<sup>2</sup>byte 換算によるものです。

- **アクセスモード**…ハードディスクが取り付けられている場合に、ハードディスクのアクセスモードを設定します。「タイプ」を「自動」、「手動」に設定した場合に設定できます。
  - **Normal** : シリンダ番号/ヘッド番号/セクタ番号によるアクセスが行われます。
  - **LBA** : LBA (Logical Block Addressing : 論理的な通し番号によるアクセス) が行われます。
  - **Large** : 拡張 CHS (Cylinder/Head/Sector) 変換によるアクセスが行われます。
  - **自動** : 最適なモードが設定されます。

#### POINT

▶ 通常は「自動」に設定してください。

- **シリンダ数**…ハードディスクのシリンダ数を設定します。「タイプ」を「自動」に設定すると、最適な値が設定されます。
- **ヘッド数**…ハードディスクのヘッド数を設定します。「タイプ」を「自動」に設定すると、最適な値が設定されます。
- **仮書き込みシリンダ**…ハードディスクへデータを書き込んでいるときにデータの保護を行うために BIOS がシリンダのどこへ仮書き込みを行うかを設定します。「タイプ」を「自動」に設定した場合、設定できません。

#### POINT

▶ 「タイプ」を「手動」に設定した場合は、65535 か 0 に設定してください。

- **ヘッドの退避シリンダ**…システムの電源が切断されたときに、ハードディスクのヘッドをどこのシリンダに退避させるかを設定します。「タイプ」を「自動」に設定した場合、設定できません。

#### POINT

▶ 「タイプ」を「手動」に設定した場合、「物理シリンダ数の最大値'-1」の値に設定してください。

- **セクタ数**…ハードディスクのセクタ数を設定します。「タイプ」を「自動」に設定すると、最適な値が設定されます。

### ■ フロッピーディスク A

フロッピーディスクドライブ (A ドライブ) のタイプを設定します。

- **使用しない** : A ドライブをしません。
- 360KB,5.25"、1.2MB,5.25"、720KB,3.5"、1.44MB, 3.5"、2.88MB,3.5"

### ■ フロッピーディスク B

フロッピーディスクドライブ (B ドライブ) のタイプを設定します。

- **使用しない** : B ドライブをしません。
- 360KB,5.25"、1.2MB,5.25"、720KB,3.5"、1.44MB,3.5"、2.88MB,3.5"

### ■ 3モード制御

1.2MB フロッピーディスクを、どのドライブで使えるようにするかを設定します。

- 使用しない：1.2MB フロッピーディスクを使えません。
- A ドライブ：1.2MB フロッピーディスクを A ドライブで使えます。
- B ドライブ：1.2MB フロッピーディスクを B ドライブで使えます。
- 両方使用する：1.2MB フロッピーディスクを A、B 両方のドライブで使えます。

### POINT

- ▶ 本パソコンに添付されている 3 モードドライバは、本設定を使いません。

### ■ ビデオモード

画面表示の規格を設定します。通常は EGA/VGA のままお使いください。

- EGA/VGA、CGA 40、CGA 80、Mono

### ■ エラーを無視するデバイス

自己診断でエラーを検出したとき、エラーを無視するデバイスを設定します。

- なし  
すべてのエラーを有効にします。
- 全て無視  
すべてのエラーを無視します。
- キーボード  
キーボードに関するエラーを無視します。
- フロッピー  
フロッピーに関するエラーを無視します。
- キーボード／フロッピー  
キーボードとフロッピーに関するエラーを無視します。

### ■ システムメモリ容量

システムメモリの容量が表示されます。設定はできません。

### ■ 拡張メモリ容量

拡張メモリの容量が表示されます。設定はできません。

### ■ 全メモリ容量

本装置に搭載されている全メモリ容量が表示されます。設定はできません。

## 詳細メニュー

詳細メニューでは、次のサブメニューでフロッピーディスクドライブ、IDE デバイスなどの設定を行います。

- BIOS 設定
- チップセット設定
- 内蔵デバイス設定
- 省電力設定
- PnP/PCI 設定

### 設定項目の詳細

#### ■ BIOS 設定

ウイルスを検出したときの警告、起動デバイスの優先順位などを設定します。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

- **ウイルス検出時の警告**…ハードディスクのブートセクタへの書き込み要求が発生した場合に、警告メッセージを表示するかどうかを設定します。
  - ・ 使用する：警告メッセージを表示するようにします。
  - ・ 使用しない：警告メッセージを表示しないようにします。

#### POINT

- ▶ ウイルス検出用アプリケーションや OS をインストールする場合は、「表示しない」に設定してください。

- **CPU 内蔵キャッシュ**…CPU 内部のキャッシュメモリを使うかどうかを設定します。
  - ・ 使用しない：CPU 内部のキャッシュメモリをしません。
  - ・ 使用する：CPU 内部のキャッシュメモリを使います。
- **外部キャッシュ**…マザーボード上の外部キャッシュメモリを使うかどうかを設定します。
  - ・ 使用しない：外部キャッシュメモリをしません。
  - ・ 使用する：外部キャッシュメモリを使います。
- **高速起動**…起動してから OS を読み込むまでの時間を、短くするかどうかを設定します。自己診断テストを簡略化します。
  - ・ 使用しない：OS を読み込むまでの時間を短くしません。
  - ・ 使用する：OS を読み込むまでの時間を短くします。
  - ・ 自動：OS を読み込むまでの時間を短くするかどうかを、ACPI 対応 OS が自動的に判断します。
- **起動ハードディスク**…起動時にデータを読み込むハードディスクの規格を設定します。
  - ・ ATA/IDE：IDE 規格のハードディスクから起動する場合に選択します。
  - ・ SCSI：SCSI 規格のハードディスクから起動する場合に選択します。
- **起動デバイスの優先順位 1～5**…起動デバイスの優先順位を設定します。
  - ・ 1:Floppy、2:HDD、3:CDROM、4:LS/ZIP（本パソコンでは未サポート）、5:LAN（本パソコンでは未サポート）

- **フロッピーディスク A/B の入れ替え**…ケーブルの接続を変更しないで、A ドライブと B ドライブを入れ替えることができます。フロッピーディスクが2ドライブ構成のときに使えます。
  - ・ **使用しない**：A ドライブと B ドライブを入れ替えません。
  - ・ **使用する**：A ドライブと B ドライブを入れ替える場合に選択します。
- **起動時の NumLock 設定**…起動時に、キーボードを NumLock 状態にするかどうかを設定します。
  - ・ **Off**：キーボードを NumLock 状態にしません。
  - ・ **On**：キーボードを NumLock 状態にします。
- **セキュリティオプション**…パスワードを設定した場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。
  - ・ **セットアップ**：BIOS セットアップを起動するときに、パスワード入力を要求します。OS を読み込むときには、パスワード入力を要求しません。
  - ・ **システム**：BIOS セットアップを起動するときと、OS を読み込むときにパスワードを要求します。
- **メモリ容量検出のための OS 選択**…64MB 以上の全メモリ容量を検出するための OS を選択します。
  - ・ **その他**：お使いになる OS が、OS/2 以外の場合に選択します。
  - ・ **OS/2**：お使いになる OS が、OS/2 の場合に選択します。
- **ハードディスクの S.M.A.R.T.**…ハードディスクが故障しそうな場合に、警告を表示するかどうかを設定します。
  - ・ **使用しない**：警告を表示しません。
  - ・ **使用する**：警告を表示します。

### POINT

▶ 警告表示を行うためには、専用のアプリケーションが必要になります。

- **割り込み要求 6 (IRQ6) の解放**…フロッピーディスクが接続されていないとき、自動的に割り込み要求 6 (IRQ6) を解放するかどうかを設定します。
  - ・ **行わない**：自動的に IRQ6 を解放しません。
  - ・ **行う**：自動的に IRQ6 を解放します。
- **xxxxx-xxxxx へ ROM を複写**…ビデオ BIOS やオプション ROM など内容を、メモリ上へ複写するかどうかを設定します。
  - ・ **C8000-CBFFF**：使用する、**CC000-CFFFF**：使用しない、**D0000-D3FFF**：使用しない、**D4000-D7FFF**：使用しない、**D8000-DBFFF**：使用しない、**DC000-DFFFF**：使用しない

### POINT

▶ アクセスの遅い ROM からアクセスの速い RAM へコピーすることで、システム全体の性能が向上します。

- **起動時の自己診断画面**…自己診断テスト中の表示について設定します。
  - ・ **表示しない**：自己診断テストの画面のかわりに、富士通ロゴが表示されます。
  - ・ **表示する**：自己診断テストの画面が表示され、富士通ロゴは表示されません。
- **システム情報の表示**…OS を読み込む前のシステム情報について、表示するかどうかを設定します。
  - ・ **表示しない**：システム情報を表示しません。
  - ・ **表示する**：システム情報を表示します。

## ■ チップセット設定

チップセットに関する設定を行います。設定内容によってシステムが不安定になり故障の原因になる場合があります。初期値のままを使い、設定を変更しないでください。

- Auto Configuration
  - Disabled、Enabled
- AT Bus Clock
  - 7.16MHz、CLK2/2、CLK2/3、CLK2/4、CLK2/5、CLK2/6
- DRAM Timing
  - Slow、Normal、Fast
- SDRAM CAS Latency
  - 3、2、Auto
- Pipelined Function
  - Disabled、Enabled
- AGP アパーチャサイズ
  - 16 MB、32 MB、64 MB、128 MB、256 MB
- DRAM Data Integrity Mode
  - Disabled、Parity、ECC
- Memory Hole At 15-16M
  - Disabled、Enabled
- Host Read DRAM Command Mode
  - Syn.、Bypass
- AGP Read Burst
  - Enabled、Disabled
- ISA Line Buffer
  - Disabled、Enabled
- Passibe Release
  - Disabled、Enabled
- Delay Transaction
  - Disabled、Enabled
- Primary Frame Buffer
  - Disabled、1 MB、2 MB、4 MB、8 MB、16 MB、All
- VGA Frame Buffer
  - Disabled、Enabled
- Data Merge
  - Disabled、Enabled
- IO Recovery Period
  - 0 us、1 us、2 us、3 us
- Auto Detect DIMM/PCI Clk
  - Enabled、Disabled
- Spread Spectrum
  - Disabled、1.5%(CNTR)、0.6%(CNTR)、1.5%(DOWN)、0.6%(DOWN)

## ■ 内蔵デバイス設定

ハードディスクの転送モードや Ultra DMA モード、シリアルポート、パラレルポートなどの設定を行います。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

- IDEプライマリコントローラ／IDEセカンダリコントローラ…IDEインターフェースを有効にするかどうかを設定します。通常は、「使用する」に設定してください。

- ・ **使用しない**：IDEインターフェースを無効にして、リソースを解放します。IDEインターフェースに接続されているデバイスは、使えなくなります。
- ・ **使用する**：IDEインターフェースを使います。

**マスター／スレーブ／PIO 転送モード**：データの転送モードを設定します。数値が大きいほど転送速度が上がります。

- ・ **自動**：自動的に、最適なモードが設定されます。
- ・ **高速 PIO 0 ~ 4**：設定により、それぞれ最大 3.3/5.2/8.3/11.1/16.7MB/秒の転送速度になります。

**マスター／スレーブ／Ultra DMA モード**：Ultra DMA の転送モードを設定します。数値が大きいほど転送速度が上がります。

- ・ **使用しない**：Multiword DMA モードに設定します。
- ・ **自動**：最適なモードに設定されます。
- ・ **モード 0 ~ 2**：設定により、それぞれ最大 17/25/34MB/秒の転送速度になります。

### POINT

- ▶ 本パソコンでは、セカンダリ IDE の DMA をサポートしていません。DMA を有効にするとシステムが不安定になることがあります。

- USB コントローラ…USB コントローラを有効にするかどうかを設定します。USB コントローラを無効にすると、すべての USB 機器が使えなくなります。この設定は、自己診断の終了後、有効になります。

- ・ **使用しない**（初期値：WindowsNT モデル）：USB コントローラを無効にします。
- ・ **使用する**（初期値：Windows98/2000 モデル）：USB コントローラを有効にします。

**USB キーボード**：USB キーボードを使えるようにするかどうかを設定します。USB コントローラを「使用する」に設定したときこの設定を変更できます。

この設定は、自己診断の終了後、有効になります。USB キーボードをお使いになるときは「使用する」を選択してください。

- ・ **使用しない**（初期値：Windows98/2000 モデル）：USB キーボードを使用不可にします。
- ・ **使用する**：USB キーボードを使用可能にします。

### POINT

- ▶ 「USB キーボード」を「使用する」に設定すると、USB に対応していない OS では、システム全体の動作が遅くなります。USB キーボードをお使いにならない場合は「使用しない」に設定してください。  
なお、USB に対応していない OS では、PS/2 キーボードのご使用をお勧めします。

**USB マウス** : USB マウスを使えるようにするかどうかを設定します。USB コントローラを「使用する」に設定したときこの設定を変更できます。

この設定は、自己診断の終了後、有効になります。USB マウスをお使いになるときは「使用する」を選択してください。

- **使用しない** (初期値 : Windows98/2000 モデル) : USB マウスを使用不可にします。
- **使用する** : USB マウスを使用可能にします。

#### POINT

- ▶ 「USB マウス」を「使用する」に設定すると、USB に対応していない OS では、システム全体の動作が遅くなります。USB マウスをお使いにならない場合は「使用しない」に設定してください。

- **プライマリディスプレイ…**プライマリディスプレイとして使うビデオデバイスを選択します。この設定は、マルチディスプレイ機能を行うときに使います。通常は、AGP に設定してください。
  - **PCI** : PCI スロット 1-2…、AGP の順に、プライマリディスプレイを自動的に選択します。PCI のディスプレイカードを増設していない場合は、マザーボード上の AGP アダプタを使います。
  - **AGP** : マザーボード上の AGP アダプタを使います。AGP は標準の内蔵ビデオデバイスです。
- **モデム着信によるウェイクアップ…**モデム (シリアルポートに接続) がリング信号を受信したときに、本パソコンの電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかについて設定します。
  - **使用しない** : モデムがリング信号を受信しても、本パソコンの電源を入れません。また、スタンバイ状態からの復帰も行いません。
  - **使用する** : モデムがリング信号を受信したときに、本パソコンの電源を入れます。または、スタンバイ状態からの復帰を行います。

#### POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、スタンバイ状態からの復帰だけが可能です。
- ▶ OS を APM モードでお使いになる場合、OS 側の設定が使われます。

- **時刻によるウェイクアップ…**指定した時刻になったときに、本パソコンの電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかについて設定します。
  - **使用しない** : 指定した時刻に、本パソコンの電源を入れません。また、スタンバイ状態からの復帰も行いません。
  - **使用する** : 指定した時刻に、本パソコンの電源を入れます。または、スタンバイ状態からの復帰を行います。

#### POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **ウェイクアップ日付**…ウェイクアップする日付を設定します。「時刻によるウェイクアップ」を「使用する」に設定した場合に設定できます。
  - 毎日、1～31

#### POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **ウェイクアップ時刻 (時)**…ウェイクアップする時刻 (時) を設定します。「時刻によるウェイクアップ」を「使用する」に設定した場合に設定できます。
  - 0～23

#### POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **ウェイクアップ時刻 (分)**…ウェイクアップする時刻 (分) を設定します。「時刻によるウェイクアップ」を「使用する」に設定した場合に、設定できます。

#### POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **ハードディスクマルチセクタ転送**…ハードディスクのデータを、数セクタ分まとめて転送するかどうかを設定します。
  - 使用しない：データをまとめて転送しません。
  - 使用する：データをまとめて転送します。
- **フロッピーディスクコントローラ**…フロッピーディスクコントローラを使うかどうかについて設定します。
  - 使用しない：フロッピーディスクコントローラを使用禁止にします。
  - 使用する：フロッピーディスクコントローラを使用可能にします。
- **シリアルポート**…シリアルポートに割り当てる I/O アドレスを設定します。
  - 使用しない：シリアルポートに I/O アドレスを割り当てません。
  - 3F8/IRQ4、2F8/IRQ3、3E8/IRQ4、2E8/IRQ3：割り当てる I/O アドレスを設定します。
  - 自動：リソースが自動的に割り当てられます。
- **パラレルポート**…パラレルポートに割り当てる I/O アドレスを設定します。
  - 使用しない：パラレルポートに I/O アドレスを割り当てません。
  - 3BC/IRQ7、378/IRQ7、278/IRQ5：割り当てる I/O アドレスを設定します。

モード：「パラレルポート」を使う設定にしたときに表示されます。パラレルポートのデータ転送モードを設定します。

  - EPP、ECP、ECP+EPP、SPP：接続する周辺機器に合わせて、設定してください。

DMA チャンネル：ECP 用の DMA チャンネルを設定します。「モード」を「ECP+EPP」または「ECP」に設定した場合に設定できます。

  - 1、3

## ■ 省電力設定

ハードディスク省電力、スタンバイ移行時間、スタンバイに移行するまでの条件、電源スイッチなどの設定をします。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

● **省電力モード**…省電力機能を使うかどうかについて設定します。

- **使用する**：省電力機能を使います。
- **使用しない**：省電力機能を使いません。

### POINT

- ▶ OS を APM モードでお使いになる場合、本設定が変更になることがあります。
- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

● **モデムの IRQ**…モデム（シリアルポート接続）に割り当てる IRQ（割り込み要求）を設定します。「省電力設定」-「シリアルポート」では、この設定で割り当てられた IRQ を監視します。

- **使用しない**：モデムに IRQ を割り当てません。
- 3、4、5、7、9、10、11：モデムに割り当てる IRQ を設定します。

### POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

● **ディスプレイ省電力**…ディスプレイを省電力モードに移行するかどうかについて設定します。

- **使用しない**：ディスプレイを省電力モードに移行しません。
- **使用する**：ディスプレイを省電力モードに移行します。

### POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。
- ▶ この機能をお使いになるためには、省電力対応のディスプレイが必要です。

● **ディスプレイ省電力方法**…ディスプレイの省電力方法について設定します。「ディスプレイ省電力」を「使用する」に設定したときに、設定できます。

- **Blank**：ディスプレイの表示を消します。
- **V/H Sync+Blank**：水平同期信号と垂直同期信号の両方を止め、ディスプレイの表示を消します。
- **DPMS**：水平同期信号と垂直同期信号の両方を止めます。

### POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。
- ▶ この機能をお使いになるためには、省電力対応のディスプレイが必要です。

- **ハードディスク省電力**…「省電力機能」が「使用する」に設定されている場合に設定できます。ハードディスクへのアクセスがなくなってから、ハードディスクのモーターを止めるまでの時間を設定します。
  - ・ **使用しない** (初期値 : Windows98/2000 モデル) : ハードディスクのモーターを止めません。
  - ・ **1 ~ 15 分** (初期値 (15 分) : WindowsNT モデル) : 設定した時間後に、ハードディスクのモーターを止めます。

### POINT

- ▶ OS を APM モードでお使いになる場合、OS が本設定を変更することがあります。
- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **スタンバイ移行時間**…スタンバイモードに移行するまでの時間を設定します。
  - ・ **使用しない** (初期値 : Windows98/2000 モデル) : スタンバイモードに移行しません。
  - ・ **1 分 ~ 1 時間** (初期値 (30 分) : WindowsNT モデル) : 設定した時間後にスタンバイモードに移行します。

### POINT

- ▶ OS を APM モードでお使いになる場合、OS が本設定を変更することがあります。
- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **ファン制御**…スタンバイモード時の CPU ファンの動作について設定します。
  - ・ **常時回転** : スタンバイモードに移行後も、ファンを回転させ続けます。
  - ・ **スタンバイ時停止** : スタンバイモードに移行時に、ファンを止めます。

### POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **PCI PMEによるウェイクアップ**…PCI拡張カードがPME信号を発生させた場合に、本パソコンの電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかについて設定します。
  - ・ **使用しない** : PCI 拡張カードが PME 信号を発生させても、本パソコンの電源を入れません。また、スタンバイ状態からの復帰も行いません。
  - ・ **使用する** : PCI 拡張カードが PME 信号を発生させた場合、本パソコンの電源を入れます。または、スタンバイ状態から復帰します。

### POINT

- ▶ Wake up on LAN をお使いになる場合、本設定を「使用する」に設定してください。
- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **IDE プライマリハードディスク**…スタンバイへ移行する前のイベントを、監視するかどうかを設定します。
  - ・ **使用しない** : イベントを監視しません。
  - ・ **使用する** : イベントを監視します。

### POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- フロッピーディスク…スタンバイへ移行する前のイベントを、監視するかどうかを設定します。
  - ・ **使用しない**：イベントを監視しません。
  - ・ **使用する**：イベントを監視します。

#### POINT

▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- シリアルポート…設定できません。
- キーボード…設定できません。
- パラレルポート…スタンバイへ移行する前のイベントを、監視するかどうかを設定します。
  - ・ **使用しない**：イベントを監視しません。
  - ・ **使用する**：イベントを監視します。

#### POINT

▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- 電源スイッチ…本パソコンの動作中に、電源スイッチを押したときの動作について設定します。
  - ・ **スタンバイ**：電源スイッチを押すと、スタンバイモードに移行します。
  - ・ **電源OFF**：電源スイッチを押すと、電源が切れます。

#### POINT

▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

### ■ PnP/PCI 設定

プラグアンドプレイ対応の OS、リソースについて設定します。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

- プラグアンドプレイ対応 OS…Windows98 など、お使いになる OS が、プラグアンドプレイに対応しているかどうかを設定します。

Windows2000 はプラグアンドプレイに対応していますが、本項目では「いいえ」に設定してください。

  - ・ **いいえ**（初期値：WindowsNT/2000 モデル）：プラグアンドプレイに対応している OS を、使わない場合に選択します。
  - ・ **はい**（初期値：Windows98 モデル）：プラグアンドプレイに対応している OS を、使う場合に選択します。
- リソース (ESCD) の初期化…システムの構成情報が格納されている ESCD (Extended System Configuration Data) の内容を、初期化するかどうかを設定します。
  - ・ **使用しない**：ESCD の内容を、初期化しません。
  - ・ **使用する**：ESCD の内容を、初期化します。再起動後は、自動的に「使用しない」に戻ります。
- リソース設定…IRQ (割り込み要求)、DMA、メモリアドレスについて設定します。
  - ・ **自動**：自動的にリソースが割り当てられます。
  - ・ **手動**：手動でリソースを割り当てる場合に選択します。

- **割り込み要求 (IRQ)** …プラグアンドプレイに対応していない ISA デバイスが使う IRQ (割り込み要求) を設定します。「リソース設定」を「手動」に設定した場合に設定できます。  
**割り込み要求 x (IRQx)** : プラグアンドプレイに対応していない ISA デバイスに、各 IRQ を割り当てるかどうかを設定します。
  - ・ IRQ3 : 使用しない、IRQ4 : 使用する、IRQ5 : 使用しない、IRQ7 : 使用する、IRQ9 : 使用しない、IRQ10 : 使用しない、IRQ11 : 使用しない、IRQ12 : 使用する、IRQ14 : 使用する、IRQ15 : 使用する
- **DMA**…プラグアンドプレイに対応していない ISA デバイスが使う DMA を設定します。「リソース設定」を「手動」に設定した場合に設定できます。  
**DMA x** : プラグアンドプレイに対応していない ISA デバイスに、各 DMA を割り当てるかどうかを設定します。
  - ・ DMA 0 : 使用しない、DMA 1 : 使用しない、DMA 3 : 使用しない、DMA 5 : 使用しない、DMA 6 : 使用しない、DMA 7 : 使用しない
- **メモリ**…プラグアンドプレイに対応していない ISA デバイスが使うメモリアドレスを設定します。「リソース設定」を「手動」に設定した場合に設定できます。  
**メモリの開始番地** : プラグアンドプレイに対応していない ISA デバイスに割り当てるメモリアドレスを設定します。
  - ・ 使用しない
  - ・ C800、CC00、D000、D400、D800、DC00**メモリのサイズ** : プラグアンドプレイに対応していない ISA デバイスで使うメモリ空間を設定します。「メモリの開始番地」を「使用しない」以外に設定した場合に設定できます。
  - ・ 8KB、16KB、32KB、64KB
- **パレット情報の参照**…拡張 ISA ビデオカードのコントローラが、PCI ビデオカードのコントローラのパレット情報 (画面に表示する色の情報) を参照するかどうかを設定します。
  - ・ 使用しない : パレット情報を参照しません。
  - ・ 使用する : パレット情報を参照します。
- **PCI 割り込み要求 (IRQ) の有効方法**…PCI カードが使う IRQ の有効方法についてを設定します。
  - ・ Edge : PCI 割り込み要求 (IRQ) をクロックのエッジで処理します。
  - ・ Level : PCI 割り込み要求 (IRQ) をレベルで処理します。

### POINT

- ▶ 「Edge」に設定した場合、PCI カードが正常に動作しないことがあります。その場合は、「Level」に設定してください。

## 標準設定メニュー

---

標準設定を読み込みます。

システムが正常に起動しなくなったとき、本設定を実行してください。

### 設定項目の詳細

#### ■ 安全に起動する標準設定値を読み込む

すべての設定項目を、システムが安全に起動する標準設定値に変更します。

#### POINT

▶ システムが正常に起動しなくなったとき、本設定を実行してください。

#### ■ 標準設定値を読み込む

すべての設定項目を、標準設定値に設定します。

ご購入時の初期設定に戻すには、標準設定値を読み込み後、次の設定を変更してください。

##### ● Windows98 モデル

内蔵デバイス設定（詳細メニュー）

- ・ USB キーボード：使用しない
- ・ USB マウス：使用しない

省電力設定（詳細メニュー）

- ・ 電源スイッチ：電源 OFF

##### ● WindowsNT モデル

内蔵デバイス設定（詳細メニュー）

- ・ USB コントローラ：使用しない

省電力設定（詳細メニュー）

- ・ ハードディスク省電力：15 分
- ・ スタンバイ移行時間：30 分
- ・ 電源スイッチ：電源 OFF

PnP/PCI 設定（詳細メニュー）

- ・ プラグアンドプレイ対応 OS：いいえ

##### ● Windows2000 モデル

内蔵デバイス設定（詳細メニュー）

- ・ USB キーボード：使用しない
- ・ USB マウス：使用しない

省電力設定（詳細メニュー）

- ・ 電源スイッチ：電源 OFF

PnP/PCI 設定（詳細メニュー）

- ・ プラグアンドプレイ対応 OS：いいえ

## セキュリティメニュー

---

セキュリティメニューでは、特定の人だけが本パソコンを操作できるようにパスワードを設定します (→ P.84)。

### 設定項目の詳細

#### ■ 管理者用パスワード

【Enter】 キーを押して、管理者用パスワードを設定、または変更します。

#### ■ ユーザー用パスワード

【Enter】 キーを押して、ユーザー用パスワードを設定します。

#### POINT

- ▶ 「パスワード」を設定すると、BIOS セットアップへのアクセス時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。このときに、誤ったパスワードを 3 回入力すると、「System Halted!!」と表示され、本パソコンはキーボードからの入力に反応しなくなります (ビープ音が鳴り続けます)。この場合、本パソコンの電源スイッチを 4 秒以上押し続けて電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
- ▶ 「ユーザー用パスワード」を設定して、さらに「管理者用パスワード」が設定されている場合、ユーザー権限で設定できる BIOS セットアップの項目が制限されます (ユーザー用パスワードのみ変更できます)。

## 終了メニュー

---

終了メニューは、セットアップを終了するときに使います。

### 設定項目の詳細

#### ■ 変更を保存して終了する (再起動)

この項目にカーソルを合わせて【Enter】 キーを押すと、「変更した内容を保存して終了しますか (再起動)」というメッセージが表示されます。

【Y】 キーを押して【Enter】 キーを押すと、変更した設定値を保存して BIOS セットアップを終了し、本パソコンを再起動します。

#### ■ 変更を保存して終了する (電源 OFF)

この項目にカーソルを合わせて【Enter】 キーを押すと、「変更した内容を保存して終了しますか (電源 OFF)」というメッセージが表示されます。

【Y】 キーを押して【Enter】 キーを押すと、変更した設定値を保存して BIOS セットアップを終了し、本パソコンの電源が自動的に切れます。

#### ■ 変更を保存せずに終了する (再起動)

この項目にカーソルを合わせて【Enter】 キーを押すと、「変更した内容を保存しないで終了しますか (再起動)」というメッセージが表示されます。

【Y】 キーを押して【Enter】 キーを押すと、変更した設定値を元に戻して BIOS セットアップを終了し、本パソコンを再起動します。

## 5 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためのパスワード機能について説明します。本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定できます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使えなくなります。

### 重要

- ▶ パスワードを忘れると、本パソコンは使えなくなり、修理が必要になります。この場合は、弊社パーソナルエコーセンターまでご連絡ください。

## パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の2つです。

入力するパスワードにより、本パソコン操作の権限が区別されます。

### ● 管理者用パスワード

特定の人だけが、BIOS セットアップを行えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップおよび OS が起動しないようにします。

### ● ユーザー用パスワード

特定の人だけが、本パソコンを使えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップおよび OS が起動しないようにします。

なお、「管理者用パスワード」が同時に設定されている場合、BIOS セットアップでは、ユーザー用パスワードのみ変更できます。

## パスワードを設定する

- 1 「ユーザー用パスワード」、または「管理者用パスワード」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

次のパスワード入力用のウィンドウが表示されます。

パスワードを入力してください [                    ]
--

- 2 8桁までのパスワードを入力します。

パスワードを変更する場合も、新しいパスワードを入力してください。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。入力した文字は表示されず、代わりに\*が表示されます。



## パスワードを変更する／削除する

---

### パスワードを変更する

パスワードを変更するには、「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」の項目で、新しいパスワードを入力、確認します。

### パスワードを削除する

パスワードを削除するには、「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」の項目で、新しいパスワードを入力しないで【Enter】キーを押します。

「パスワードを消去しました。どれかキーを押してください。」というメッセージが表示され、パスワードが削除されます。

## 6 BIOSが表示するメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するエラーメッセージの対処方法について説明します。必要に応じてお読みください。

### メッセージが表示されたときは

「[メッセージ一覧](#)」(→P.87)に記載の処置や次の処置を行ってください。

- BIOS セットアップを実行する  
BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップを再実行してください。
- 内蔵オプションの取り付けを確認する  
オプションの拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込み要求など正しく設定されているかどうかも確認してください。このとき、拡張カードに添付のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合は、それらのマニュアルもあわせてご覧ください。  
処置を実施しても、まだエラーメッセージが発生する場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

### メッセージ一覧

本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

- BIOS ROM checksum error - System halted.  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- CMOS BATTELY HAS FAILED  
バッテリーの交換が必要です。
- CMOS CHECKSUM ERROR  
【F2】キーを押して、BIOSセットアップを起動し、BISO設定を標準設定値に戻してください。
- DISK BOOT FAILURE,INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER  
フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出して、【Enter】を押してください。
- DISKETTE DRIVES OR TYPES MISMATCH ERROR - RUN SETUP  
フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。正しく接続されているときは、BIOS セットアップを起動して、フロッピーディスクドライブの種類が正しく設定されているかを確認してください。
- DISPLAY SWITCH IS SET INCORRECTLY  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- DISPLAY TYPE HAS CHANGED SINCE LAST BOOT  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

- EISA Configuration Checksum Error  
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- EISA Configuration Is Not Complete  
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- ERROR ENCOUNATED INITIALIZING HARD DRIVE  
【F2】 キーを押して、BIOS セットアップを起動し、パソコン本体の環境（システム構成）と BIOS セットアップの設定が正しいか、確認してください。
- ERROR INITIALIZING HARD DISK CONTROLLER  
【F2】 キーを押して、BIOS セットアップを起動し、IDE ドライブの設定が正しく行われているかを確認してください。
- FLOPPY DISK CNTRLR ERROR OR NO CNTRLR PRESENT  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- FLOPPY DISK(S) fail (80)  
FLOPPY DISK(S) fail (40)  
フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。正しく接続されているときは、BIOS セットアップを起動して、フロッピーディスクドライブの種類が正しく設定されているかを確認してください。
- Hard Disk(s) fail (80)  
Hard Disk(s) fail (40)  
Hard Disk(s) fail (20)  
Hard Disk(s) fail (10)  
Hard Disk (s) fail (08)  
【F2】 キーを押して、BIOS セットアップを起動し、パソコン本体の環境（システム構成）と BIOS セットアップの設定が正しいか、確認してください。
- Invalid EISA Configuration  
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- KEYBOARD ERROR OR NO KEYBOARD PRESENT  
キーボードが正しく接続されているかを確認してください。
- Keyboard is locked out - Unlock the key.  
キーボードが正しく接続されているかを確認してください。
- Manufacturing POST loop.  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- Memory Address Error at...  
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- Memory parity Error at...  
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- MEMORY SIZE HAS CHANGED SINCE LAST BOOT  
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- Memory test fail.  
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- Memory Verify Error at...  
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。

- **OFFENDING ADDRESS NOT FOUND**  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- **OFFENDING SEGMENT:**  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- **PRESS A KEY TO REBOOT**  
キーボードのキーのどれかを押してください。本パソコンが再起動します。
- **PRESS F1 TO DISABLE NMI,F2 TO REBOOT**  
【F1】キーを押して先に進めるか、または【F2】キーを押して、本パソコンを再起動してください。
- **RAM PARITY ERROR - CHECKING FOR SEGMENT...**  
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- **Should Be Empty But EISA Board Found**  
**PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY**  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- **Should Have EISA Board But Not Found**  
**PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY**  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- **Slot Not Empty**  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- **SYSTEM HALTED, (CTRL-ALT-DEL) TO REBOOT...**  
【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】キーを押して、本パソコンを再起動してください。
- **Wrong Board In Slot**  
**PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY**  
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。



# 4

## 第4章

### 困ったときに

本パソコンにトラブルが発生したときなど、どうすればいいのかを説明しています。必要に応じてお読みください。

1	こんなときには .....	92
---	---------------	----

# 1 こんなときには

ここでは、各機能に関するトラブル情報について記載しています。必要に応じてお読みください。

## ■ アクセス表示ランプがつかない

本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

## ■ 画面に何も表示されない

次のことを確認してください。

- 省電力モードが設定されていませんか。  
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。
- ディスプレイのケーブルは、正しく接続されていますか (→ P.24)。
- ディスプレイの電源ケーブルは、アウトレットに接続されていますか (→ P.24)。

## 警告



- ケーブルは、必ず電源を切ってから接続し直してください。  
感電の原因となります。

- ディスプレイのブライトネス/コントラストボリュームは、正しく調節されていますか。ブライトネス/コントラストボリュームで画面を調節してください。

## ■ 画面が揺れる

近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか。強い磁界が発生するものは、ディスプレイから離して置いてください。

## ■ 画面の両サイドが欠ける

お使いのディスプレイの調整ボタンで、水平画面サイズを調整してください。

## ■ フロッピーディスクの読み込み、書き込みができない

次のことを確認してください。

- フロッピーディスクドライブのヘッドが汚れていませんか。クリーニングフロッピーディスクでヘッドの汚れを落としてください (→ P.98)。
- フロッピーディスクが書き込み禁止になっていませんか。フロッピーディスクのライトプロテクトノッチを書き込み可能な位置にしてください。

## ■ 電源が入らない、前面にある電源ランプがつかない

電源ケーブルは、コンセントに接続されていますか。確認してください。

**■ CD-ROM ドライブから、データの読み込みができない**

次のことを確認してください。

- CD をトレイの中央に正しくセットしていますか。CD のレーベル面を上にして、セットし直してください。
- CD が表裏逆に入っていませんか。CD のレーベル面を上にして、正しくセットしてください。
- CD が汚れていたり、結露または水滴がついていたりしていませんか。かわいた柔らかい布で中央から外側に向かって拭いてください。
- CD に傷がついていたり、極端にそっていたりしていませんか。そのような場合には、CD を交換してください。
- 規格外の CD をお使いになっていませんか。規格に合った CD をお使いください。

**■ キーボードから入力した文字が表示されない**

キーボードは正しく接続されていますか (→ P.24)。

**■ マウスカーソルが動かない**

マウスは正しく接続されていますか (→ P.24)。

**■ SCSI カードを使用して SCSI 装置を接続したが、Windows98/2000 から認識できない**

次のことを確認してください。

- SCSI カードのドライバはインストールされていますか。次の手順に従って確認してください。
  - 1 「コントロールパネル」ウィンドウの「システム」アイコンをダブルクリックします。
  - 2 デバイスマネージャに SCSI コントローラが登録されているか確認します。
    - ・ Windows98 の場合  
「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
    - ・ Windows2000 の場合  
「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。登録されていなければ、「コントロールパネル」ウィンドウから「ハードウェア」アイコンをダブルクリックして、SCSI カードの検出とドライバのインストールを行ってください。
- SCSI 装置の電源は、パソコン本体の電源を入れる前に入れましたか。パソコン本体の電源より先に SCSI 装置の電源が入っていないと、正しく認識されません。

**■ ネットワークに接続できない**

次のことを確認してください。

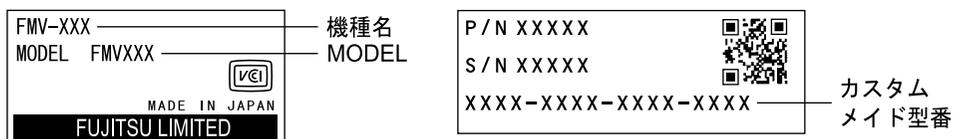
- ネットワークケーブルが正しく接続されていますか。
- 100Mbps で通信している場合、カテゴリ 5 の UTP ケーブルをお使いですか。
- ハブユニットの ACT/LNK ランプが点灯していますか。
- TCP/IP プロトコルをお使いの場合、Ping コマンドを使って接続できているかを確認してください。

## それでも解決できないときは

下記の連絡先にお問い合わせください。なお、お問い合わせ前に機種名／MODEL／カスタムメイド型番を確認してください。

### 機種名／MODEL／カスタムメイド型番の表記場所

パソコン本体背面のラベルに記載されています。



### 連絡先

こんなときには	こちらへ
添付品の不備	ご購入元
故障かなと思われたとき	弊社パーソナルエコーセンター※またはご購入元
FM シリーズの技術的なご質問・ご相談	FM インフォメーションサービス※
本パソコンにインストールされているソフトウェアのお問い合わせ	『ソフトウェアガイド』参照

※：パーソナルエコーセンターと FM インフォメーションサービスの連絡先は、添付の『修理サービス網一覧表』をご覧ください。

### 情報サービス

また、次の方法で情報サービスを行っております。

富士通パソコン FAX サービス (カタログ、Q&A 情報)	043-299-3642 (千葉) 06-6949-3270 (大阪)
インターネット (製品の技術情報、Q&A 情報)	富士通パソコンホームページ FM WORLD <a href="http://www.fmworld.net/">http://www.fmworld.net/</a>
FM シリーズの音声による Q&A 情報	FM インフォメーションテレホンガイド 0120-89-2235

# 第 5 章

## 技術情報

# 5

本パソコンの仕様などを記載しています。

1	ハードウェアのお手入れ .....	96
2	廃棄について .....	99
3	テレビ／ラジオなどの受信障害防止について .....	100
4	筐体のセキュリティ .....	101
5	LAN 機能の診断テスト .....	102
6	標準仕様 .....	103
7	その他の注意事項 .....	108

# 1 ハードウェアのお手入れ

---

## パソコン本体のお手入れ

---

### 警告



- お手入れをする場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電の原因となります。

- 柔らかい布でから拭きします。から拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませ固くしぼった布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぼった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、パソコン本体に水が入らないようにご注意ください。
- 通風孔にほこりがたまらないよう、掃除機などでほこりを吸引するなど、定期的に清掃してください。

## キーボードのお手入れ

---

柔らかい布でから拭きします。

## CDのお手入れ

---

柔らかい布で、中央から外側に向かってから拭きします。汚れがひどいときは、柔らかい布を薄い石けん水に浸し、固くしぼって汚れを拭き取り、その後柔らかい布でから拭きしてください。

## マウスのお手入れ

表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

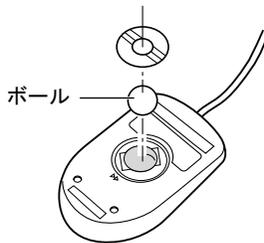
### 1 マウスの裏ボタンを取り外します。

マウス底面にある裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



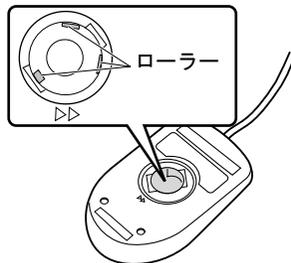
### 2 ボールを取り出して、水洗いします。

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、ボールを水洗いします。



### 3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、ローラー、および裏ボタンを、水に浸して固くしぼった布で拭きます。



### 4 ボール、裏ボタンを取り付けます。

ボールとマウスの内部を十分乾燥させたら、ボールと裏ボタンを取り付けます。

## フロッピーディスクドライブのお手入れ

---

フロッピーディスクドライブは、長い間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売（サプライ品）のクリーニングフロッピーで、3ヶ月に1回程度クリーニングしてください。

- サプライ品

クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号：0212116

（富士通ワークコ取り扱い品：☎ 03-3342-5375）

クリーニング方法は、OSによって異なります。

### Windows98 モデルの場合

- 1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 2 「名前」に次のように入力し、【Enter】キーを押します。  
c:¥fjuty¥c\ndsk 0
- 3 フロッピーディスクドライブにクリーニングフロッピーをセットし、【Enter】キーを押します。  
ヘッドクリーニングが始まり、「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示されます。「ヘッドクリーニングが終了しました。」とメッセージが表示されたら終了です。
- 4 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。

### WindowsNT/2000 モデルの場合

クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットします。

WindowsNT/2000 のコマンドプロンプトから、dir などのディスクにアクセスするコマンドを実行します。

例：次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
dir a:
```

## 2 廃棄について

---

本パソコンはリチウム電池を使っているため、火中に投じると破裂のおそれがあります。本パソコンの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則にしたがってください。

## 3 テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本パソコンは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本パソコンの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じて、本パソコンの故障ではありません。テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような点にご注意ください。

### 本パソコン側での留意点

- 本パソコンのカバーを外した状態で、お使いにならないでください。
- 周辺装置と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- 本パソコンの電源プラグは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

### テレビやラジオ側での留意点

- テレビやラジオなどを、本パソコンから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートを本パソコンから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルをお使いください。

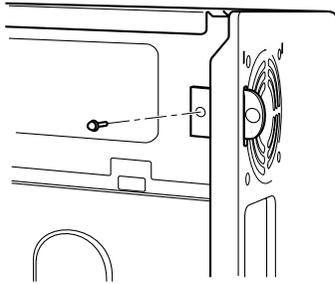
本パソコンや周辺装置などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本パソコンや周辺装置など全体の電源を切ることで確認することができます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、上記の項目を再点検してください。それでも改善されない場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

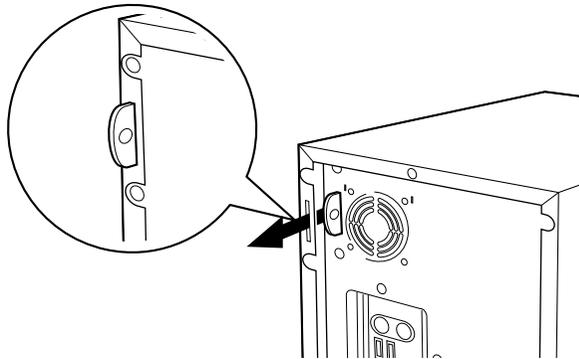
## 4 筐体のセキュリティ

パソコン内部の装置（ハードディスクやCPUなど）を盗難から守るため、本パソコンのカバーに施錠できます。

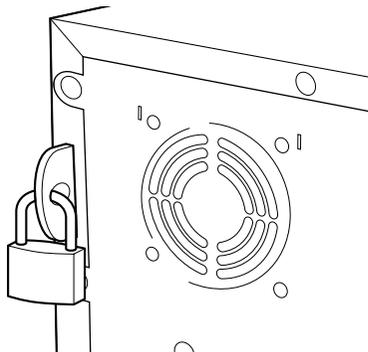
- 1 本体カバーを取り外します。
- 2 セキュリティキー取り付け金具を取り付けます。



- 3 本体カバーを取り付けます。  
本体カバー背面にあるスリットに、セキュリティキー取り付け金具を通します。



- 4 セキュリティキー取り付け金具にお手持ちの鍵を取り付けます。



## 5 LAN 機能の診断テスト

LAN 機能の診断テストを行うと、LAN 機能や LAN ケーブルの配線、さらにネットワーク接続に問題がないかどうかを調べることができます。ネットワーク環境をお使いになる前に、診断テストの実施を推奨します。

### LAN 機能テスト

TCP/IP プロトコルをお使いになる場合、Ping コマンドを使ってテストを行ってください。

#### POINT

- ▶ LAN ドライバをインストールすると、「コントロールパネル」ウィンドウに「Intel PROSet」アイコンが登録されますが、これはお使いになれません。

## 6 標準仕様

### 本体仕様

		FMV-5533ML5
CPU		3D Now!™ テクノロジー AMD-K6®-2/533MHz
キャッシュメモリ		1次 64KB (CPU 内蔵) 2次 512KB (外部)
BIOS ROM		256KB (フラッシュ ROM)
メインメモリ		標準 64MB 64bit SDRAM (100MHz) 最大 256MB※ <sup>1</sup>
フロッピーディスク		3.5 インチ×1 (3 モード対応)
ハードディスク		標準 10.2GB (IDE)※ <sup>2</sup>
CD-ROM		最大 40 倍速 (平均 28 倍速)・トレータイプ (ATAPI)
グラフィック		VGA/SVGA 最大 1280×1024 ドット/最大 1677 万色 VRAM 8MB
ネットワーク		100BASE-TX/10BASE-T、Wake up on LAN 対応
I/F	ディスプレイ	アナログ RGB ミニ D-SUB 15pin
	USB	USB コネクタ×2
	キーボード	PS/2 タイプ Mini-DIN 6pin
	マウス	PS/2 タイプ Mini-DIN 6pin
	シリアルポート	非同期 RS-232C ×1 D-SUB 9pin
	パラレルポート	セントロニクス準拠 ECP 対応 D-SUB 25pin
	オーディオ	マイク入力/ライン入力/ライン出力/MIDI/ジョイスティック
LAN	モジュラーコネクタ RJ45	
拡張スロット数		PCI×3 (ハーフ、最大長 270mm、Rev 2.1) (うち 1 スロットに LAN アダプタ搭載済み)
ストレージベイ数		5 前面：フロントアクセスベイ×2 (うち 1 つに CD-ROM 搭載済) 3.5 インチフロッピーディスクドライブ搭載済 内部：3.5 インチハードディスクベイ×2 (うち 1 つに搭載済)
電源/周波数		AC100V 50/60Hz
消費電力		約 75W
省エネ法に基づく エネルギー消費効率 (区分 R)		Windows98 モデル：0.019 WindowsNT モデル：0.021 Windows2000 モデル：0.020
重量		約 8.5kg
外形寸法		179mm×344mm×360mm (W×D×H)
使用環境		温度：10～35℃ 湿度：20～80% (RH)

※1：キャッシュ領域 128MB まで

※2：本書に記載のディスク容量は、1MB=1000<sup>2</sup>byte、1GB=1000<sup>3</sup>byte 換算によるものです。1MB=1024<sup>2</sup>byte、1GB=1024<sup>3</sup>byte 換算で Windows 上に表示される実際の容量は、本書に記載のディスク容量より少なくなります。

#### POINT

- ▶ 本パソコンの仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

## LAN アダプタ仕様

LAN コントローラ	Intel 82559
送受信バッファ用 RAM	送受信 各 3Kbyte
外部インターフェース	ISO8802-3 100BASE-TX/10BASE-T
伝送媒体	ツイストペアケーブル※ <sup>1</sup> (100Mbps: カテゴリ 5、10Mbps: カテゴリ 3～5)
伝送方式	ベースバンド
アクセス方式	CSMA/CD
データ転送速度	100Mbps、10Mbps
配線形態	スター型
セグメント最大長	100m
最大ノード数/セグメント	ハブユニット※ <sup>2</sup> による

※1: ネットワークを 100Mbps で確実に動作させるには、非シールド・ツイスト・ペア (UTP) カテゴリ 5 またはそれ以上のデータ・グレードのケーブルをお使いください。カテゴリ 3 またはカテゴリ 4 のケーブルを使うと、データ紛失が発生します。

※2: ハブユニットとは、100BASE-TX/10BASE-T のコンセントレータです。

### POINT

- ▶ 本パソコン標準搭載の LAN はネットワークのスピードに自動で対応します。ハブユニットの変更などでネットワークのスピードが変更される場合、スピードに対応した適切なデータグレードのケーブルを必ずお使いください。

## サウンド仕様

サウンドコントローラ	YAMAHA YMF724F
サンプリングレート	5～48KHz

※: DirectX7.0a 以降に対応しています。

## グラフィック仕様

ビデオコントローラ	ATI Technologies 製 RAGE™ LT PRO AGP 2X
表示モード	最大 1280 × 1024、1677 万色
ビデオ出力信号	ビデオ: アナログ RGB、同期信号: TTL コンパチブル
ビデオメモリ	SDRAM 8MB

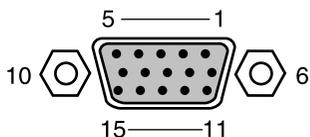
※: 8bpp、24bpp 上では、Direct3D および OpenGL のハードウェアアクセラレーション (HAL) はサポートしていません。グラフィック性能については、環境設定およびお使いになるアプリケーションによって異なります。

※: DirectX7.0a 以降に対応しています。

## コネクタ仕様

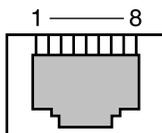
各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

### CRT コネクタ



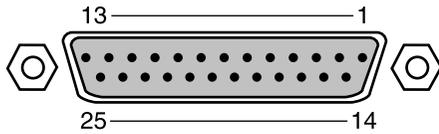
ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	ID2	入出力	未接続
5 ~ 8	GND	—	グラウンド
9	VCC	—	電源
10	GND	—	グラウンド
11	ID0	入出力	未接続
12	ID1 (SDA)	入出力	DDC データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	DDC クロック

### LAN コネクタ (100BASE-TX/10BASE-T)



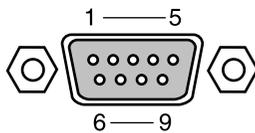
ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD+	出力	送信データ+
2	TD-	出力	送信データ-
3	RD+	入力	受信データ+
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	RD-	入力	受信データ-
7	NC	—	未接続
8	NC	—	未接続

## パラレルコネクタ



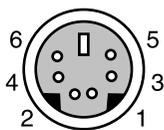
ピン番号	信号名	方向	説明
1	STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18 ~ 25	GND	—	グラウンド

## シリアルコネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	—	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

## マウスコネクタ



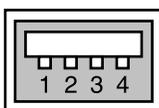
ピン番号	信号名	方向	説明
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グラウンド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

## キーボードコネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グラウンド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

## USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	−データ信号
3	+DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グラウンド

## 7 その他の注意事項

### USB について (Windows98/2000 モデル)

USB とは、ユニバーサル・シリアル・バス (Universal Serial Bus) と呼ばれる、マウス、キーボード、プリンタ、モデム、スピーカーなどのインターフェースを共通化するための規格です。

#### POINT

- ▶ USB 対応周辺装置によっては、専用のデバイスドライバのインストールが必要になる場合があります。
- ▶ USB をサポートしている OS は、Windows98/2000 です。
- ▶ USB 機器を接続している場合、接続している USB 機器の種類によっては Windows を正常に終了できないことがあります。その場合は、USB 機器を取り外してから Windows を終了してください。
- ▶ USB に関する最新情報については、下記のオンライン情報サービスで情報を提供する予定です。
  - FM WORLD : <http://www.fmworld.net/>

### USB キーボード (Windows98 モデル)

- 「コントロールパネル」－「ユーザー補助」－「フィルタキー機能」－「設定」で「ショートカットキーを使う」を有効にした場合、「右 shift」キーを 8 秒以上押し続けてもショートカットキーの機能が働かず、「フィルタキー機能を使う」の設定が行われません。マウス操作で「フィルタキー機能を使う」のチェックボックスを設定してください。
- MS-DOS モードのときに、USB キーボードから一度に大量の文字を入力すると、まれにシステムが停止する場合があります。
- 本パソコンを使用中に USB キーボードコネクタを抜き差ししないでください。USB キーボードコネクタを抜き差しすると、システムが応答しなくなる場合があります。システムが応答しなくなった場合、いったん電源スイッチを 4 秒以上押し続けて電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れてください。
- Safe モードで起動する場合は、「BIOS セットアップ」で次の設定を変更してください。
  - ・「詳細」－「内蔵デバイス設定」－「USB キーボード」：はい
  - ・「詳細」－「内蔵デバイス設定」－「USB マウス」：はいSafe モード終了後、次のように設定を戻し、再起動してください。
  - ・「詳細」－「内蔵デバイス設定」－「USB キーボード」：いいえ
  - ・「詳細」－「内蔵デバイス設定」－「USB マウス」：いいえ

## USB 機器の増設 (Windows98/2000 モデル)

---

複数の USB 機器を増設して同時に使った場合、USB 機器の動作が不安定になることがあります。この場合は、使う機器だけを USB ポートに接続し、お使いください。

## LAN アダプタの追加について

---

本パソコンをクライアントとして運用し、LAN アダプタを追加した場合、標準搭載の LAN 機能と同時にお使いになれません。

## Wake up On LAN について

---

BIOS セットアップの「詳細」－「省電力設定」－「PCI PME によるウェイクアップ」(→ P.79) を「使用する」に設定すると、LAN を経由して本パソコンの電源を入れることができます (WOL : Wake up On LAN)。本機能をお使いになる場合は、電源ケーブルを接続したあと、必ず一度本パソコンの電源を入れてください。電源ケーブルを接続しただけでは、本機能が正常に動作しない場合があります。

## ディスプレイをお使いになるうえでの注意

---

お使いになるディスプレイの設定 (解像度など) によっては、CAD 系アプリケーションなどで縦線と横線の太さが異なって見えることがあります。設定を調整してお使いください。

## ディスプレイカードの取り付け (Windows98/2000 モデル)

---

本パソコンに標準搭載のディスプレイアダプタを使わずに、PCI スロットに増設するディスプレイカードのみを使う場合は、次の手順で取り付けてください。ただし、マルチモニタ機能を使う場合は、添付の『ソフトウェアガイド』をご覧ください。

### Windows98 モデルの場合

次の手順で「ATI Display Driver」を削除し、ディスプレイカードを取り付けてください。

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。  
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「ATI Display Driver」をクリックします。
- 3 「追加と削除」をクリックします。  
「ATI Uninstall」ダイアログボックスが表示されます。

- 4** 「はい」をクリックします。
- 5** 「はい」をクリックします。  
本パソコンが再起動されます。
- 6** BIOS セットアップを起動します (→ P.65)。
- 7** 「詳細」－「内蔵デバイス設定」－「プライマリディスプレイ」(→ P.76) の設定を「AGP」から「PCI」に変更します。
- 8** 設定を保存して、BIOS セットアップを終了します (→ P.83)。
- 9** 本パソコンの電源が切れたら、電源ケーブルをコンセントから抜き、ディスプレイカードを取り付けます (→ P.49)。

### Windows2000 モデルの場合

- 1** BIOS セットアップを起動します (→ P.65)。
- 2** 「詳細」－「内蔵デバイス設定」－「プライマリディスプレイ」(→ P.76) の設定を「AGP」から「PCI」に変更します。
- 3** 設定を保存して、BIOS セットアップを終了します (→ P.83)。
- 4** 本パソコンの電源が切れたら、電源ケーブルをコンセントから抜き、ディスプレイカードを取り付けます (→ P.49)。

## ディスプレイの接続

---

ディスプレイ接続時に画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイにあった周波数が設定されているか確認してください。それでも画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイ側で調整を行ってください。

## ディスプレイの交換

---

仕様の異なるディスプレイ（特に液晶ディスプレイ）に交換する場合、画面が表示されないなどの表示異常が発生することがあります。その場合、次の手順でディスプレイを交換してください。

### Windows98 モデルの場合

- 1** 解像度を 640 × 480 に設定します（ディスプレイ交換前）。
- 2** リフレッシュレートを「アダプタの既定値」に設定します。
- 3** Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切り、ディスプレイを交換します。

上記設定を行わずにディスプレイを交換して、画面が表示されない、または表示できない解像度がある場合、次の手順でディスプレイドライバを再インストールしてください。

- 1** Windows を Safe モードで起動します。
- 2** グラフィックアダプタを「標準 PCI グラフィックアダプタ (VGA)」に設定して、再起動します。
- 3** ディスプレイドライバを再インストールします。

### WindowsNT モデルの場合

- 1** パソコンの電源を切り、ディスプレイを交換します。
- 2** Windows NT Workstation Version4.00 [VGA mode] で起動します。
- 3** ディスプレイの仕様に合わせて解像度、色数、リフレッシュレートを設定し、再起動します。

## Windows2000 モデルの場合

- 1 解像度を 640 × 480 に設定します（ディスプレイ交換前）。
- 2 リフレッシュレートを「60Hz」に設定します。
- 3 Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切り、ディスプレイを交換します。

上記設定を行わずにディスプレイを交換して、画面が表示されない、または表示できない解像度がある場合、次の手順でディスプレイドライバの再設定を行ってください。

- 1 Windows を VGA モードで起動します。
- 2 解像度を 640 × 480 に設定します。
- 3 リフレッシュレートを「60Hz」に設定します。
- 4 Windows を再起動します。

## 省電力機能

---

動画を再生する場合や DirectX 対応のソフトウェアをご使用の場合は、ディスプレイの省電力機能やシステムスタンバイなど、省電力機能の設定は行わないでください。

## CD-ROM ドライブ

---

別売の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにごみなどが付着することがあります。別売の CD-ROM クリーニングディスクはお使いにならないでください。

## スクロール機能（ホイール機能）付きマウス (Windows98 モデル)

---

スクロール機能付きマウス（PS/2）は、必ず本体に接続してください。

USB キーボードとスクロール機能付きマウス（PS/2）を同時に使う場合、Windows98 の Safe モードで、マウスが動作しなくなる可能性があります。

この場合、USB キーボードをパソコン本体から抜き、クリックなどのマウス操作をしてから、USB キーボードを再度接続してください（スクロール機能は Windows98 の Safe モードでお使いになれません）。

## コアの取り付けについて

マイク、スピーカー、COM デバイス、LAN を接続するときは、不要電波の放射を軽減するために、添付のコアをケーブルに取り付けてください。

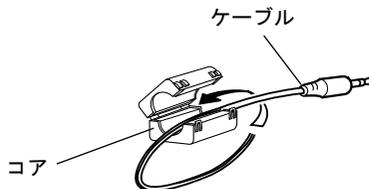
本パソコンに添付のコアのうち、大きいほうのコアは COM デバイス、LAN ケーブル用、小さいほうのコアはサウンドケーブル用です。

コアの取り付けかたは、次のとおりです。

### POINT

- ▶ コアを閉じる際に、ケーブルをはさみ込まないようにしてください。

- 1 ケーブルの本体取り付け側コネクタのすぐうしろで、コアにケーブルを1回巻き付けます。



- 2 コアを閉じます。



- 3 ケーブルをパソコン本体に接続します。

## WindowsNT 4.0 をお使いになる場合

WindowsNT 4.0 をお使いになる場合は、Service Pack6a 以降が必要になります。

## デバイスマネージャの表示 (Windows98/2000 モデル)

Windows98/2000 の「デバイスマネージャ」(COM/LPT) のポートの設定で「このハードウェア環境で使用不可にする。」をチェックするとポートに「×」が表示されます。この設定を有効にするには本パソコンを再起動してください。再起動後にハードウェアで使用不可となり、デバイスマネージャでポートを確認すると「×」が表示されます。

また、Windows98/2000 上で使用不可にしたポートを使用可能にする場合は、Windows98/2000 で有効にする必要があります。Windows98/2000 上のデバイスマネージャのポートの設定で「このハードウェア環境で使用不可にする。」のチェックを外し、本パソコンを再起動させてください。BIOS セットアップでポートを「使用しない」に設定するとデバイスマネージャには何も表示されません。

## アプリケーション動作中のサウンドについて (Windows98 モデル)

---

一部のアプリケーション（ゲームなど）において、サウンドが正常に再生されないことがあります。この場合、次の手順に従ってハードウェアアクセラレータの設定を変更すると、改善されることがあります。

- 1** 「コントロールパネル」ウィンドウの「マルチメディア」アイコンをダブルクリックします。  
「マルチメディアのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 2** 「オーディオ」タブにある「再生」の「詳細プロパティ」をクリックします。  
「オーディオの詳細プロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 3** 「パフォーマンス」タブをクリックします。
- 4** 「オーディオ再生」－「ハードウェア アクセラレータ」のスライダーが「なし」の場合は「最大」に、「最大」の場合は「なし」にドラッグします。
- 5** 「OK」をクリックします。
- 6** 「OK」をクリックします。

## 復電機能

---

本パソコンは、無停電電源装置などで AC 入力を制御して運用することができません。本パソコンは電源切断時の状態保持機能を持っていないため、停電などにより電力供給がなくなったあと、電源が回復しても電源は OFF 状態のままとなります。

## シリアルポートについて (Windows2000 モデル)

---

標準シリアルポートの通信速度が低下することがあります。この場合、次の手順で通信速度を改善できます。

- 1** Administrators グループのメンバーとしてログオンします。
- 2** デスクトップの「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。  
「システムのプロパティ」ダイアログが表示されます。
- 3** 「ハードウェア」タブをクリックし、[デバイスマネージャ] をクリックします。  
「デバイスマネージャ」ダイアログが表示されます。

- 4** 「ポート (COM と LPT)」をダブルクリックします。
- 5** 「通信ポート (COM1)」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。  
「通信ポート (COM1) のプロパティ」ダイアログが表示されます。
- 6** 「ポートの設定」タブをクリックし、[詳細] をクリックします。
- 7** 「受信バッファ」の「スライダ」を左から2番目までずらし、[OK] をクリックします。
- 8** すべてのダイアログ、ウィンドウを閉じます。
- 9** 本パソコンを再起動します。  
再起動後、設定が有効になります。



# 索引

## 記号

100BASE-TX/10BASE-T .....	105
109 日本語キーボード .....	18
3 モード制御 .....	71
5 インチファイルベイ .....	58

## B

### BIOS

ー設定 .....	72
ーセットアップ .....	64
ーセットアップの各キーの役割 ..	66
ーセットアップの操作のしかた ..	65

## C

### CD

ーのお手入れ .....	96
ーのセット .....	35
ーの取り出し .....	35

CD-ROM ドライブ .....	34, 93, 112
CMOS RAM .....	64
CPU 内蔵キャッシュ .....	72
CRT コネクタ .....	105

## D

DMA .....	81
-----------	----

## I

IDE セカンダリ .....	69
ーコントローラ .....	75
IDE プライマリ .....	69
ーコントローラ .....	75
ーハードディスク .....	79

## L

### LAN

ーアダプタ仕様 .....	104
ー機能の診断テスト .....	102
ーケーブルの接続 .....	24
ーコネクタ .....	105

## M

MODEL .....	94
-------------	----

## P

PCI PME によるウェイクアップ .....	79
PCI 割り込み要求 (IRQ) の 有効方法 .....	81
PME 信号 .....	79
PnP/PCI 設定 .....	80

## R

ROM を複写 .....	73
---------------	----

## S

SCSI .....	93
------------	----

## U

USB .....	108
ーキーボード .....	75, 108
ー機器の増設 .....	109
ーコネクタ .....	107
ーコントローラ .....	75
ーマウス .....	76

## あ

### アクセス

ー表示ランプ .....	92
ーモード .....	70

アダプタプラグ .....	27
---------------	----

安全に起動する標準設定値を 読み込む .....	82
-----------------------------	----

ウイルス検出時の警告 .....	72
------------------	----

### ウェイクアップ

ー時刻 (時) .....	77
ー時刻 (分) .....	77
ー日付 .....	77

### エラー

ーメッセージが表示された ときは .....	87
ーを無視するデバイス .....	71

お手入れ	96
オプション	40

## か

外部キャッシュ	72
拡張カード	49
-の取り付け	50
拡張メモリ容量	71
カスタムメイド型番	94
画面	
-が揺れる	92
-の両サイドが欠ける	92
仮書き込みシリンダ	70
管理者用パスワード	83, 84
キーボード	18, 80
-コネクタ	107
-のお手入れ	96
-の接続	24
機種名	94
起動	
-デバイスの優先順位	72
-ハードディスク	72
起動時	
-の NumLock 設定	73
-の自己診断画面	73
クリック	20
コア	113
高速起動	72
コネクタ仕様	105
さ	
最大容量	70
サウンド	114
-仕様	104
時刻によるウェイクアップ	76
システム	
-時刻	69
-情報の表示	73
-日付	69
-メモリ容量	71
受信障害防止	100
仕様	103
詳細メニュー	72

省電力	
-機能	109
-設定	78
-モード	78
情報サービス	94
終了メニュー	83
シリアル	
-コネクタ	106
-ポート	77, 80
シリンダ数	70
スクロール	21
-機能	112
スタンバイ	78
-移行時間	79
スレーブ	52
セキュリティ	101
-オプション	73
-メニュー	83
セクタ数	70
接続	23
設置	22
全メモリ容量	71

## た

ダブルクリック	21
チップセット設定	74
通風孔	96
ディスプレイ	111
-カード	109
-省電力	78
-省電力方法	78
-の交換	111
-の接続	24, 110
デバイスマネージャ	113
電源	
-が入らない	92
-ケーブルの接続	26
-スイッチ	80
-の入れかた	28
-の切りかた	30
-ランプ	92
ドラッグ	21
トラブル情報	92

な	
内蔵	
-デバイス設定	75
-ハードディスクベイ	54
-バッテリー	17
は	
ハードディスク	52
-省電力	79
-の S.M.A.R.T.	73
-の自動検出	69
-マルチセクタ転送	77
廃棄	99
パスワード	64
-の設定方法	84
-を削除する	86
-を変更する	86
パソコン本体のお手入れ	96
パラレル	
-コネクタ	106
-ポート	77, 80
パレット情報の参照	81
ビデオモード	71
表示されない	92
標準設定値	82
-を読み込む	82
標準設定メニュー	82
ファン制御	79
プライマリディスプレイ	76
プラグアンドプレイ対応 OS	80
フロッピーディスク	36, 80, 92
-コントローラ	77
-ドライブのお手入れ	98
-のセット	36
-の取り出し	37
-A	70
-A/B の入れ替え	73
-B	70
フロントアクセスベイオプション	42
フロントパネルの取り外し	44
ヘッド数	70
ヘッドの退避シリンダ	70
変更を保存	
-して終了する (再起動)	83
-して終了 (電源 OFF)	83
-せずに終了 (再起動)	83
ホイール機能	112
ポイント	21
本体カバーの取り外し	44
ま	
マウス	20, 112
-コネクタ	107
-のお手入れ	97
-の接続	24
マザーボード	17
マスター	52
名称と働き	12
メインメニュー	69
メッセージ	64, 87
メモリ	46, 81
-の取り付け	47
-の取り外し	48
-容量検出のための OS 選択	73
モデム	
-着信によるウェイクアップ	76
-の IRQ	78
や	
ユーザー用パスワード	83, 84
ら	
リセット	32
リソース	
-設定	80
-(ESCD) の初期化	80
連絡先	94
わ	
割り込み	
-要求 6 (IRQ6) の開放	73
-要求 (IRQ)	81



## 保証について

- 保証書は必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。
- 保証期間内に正常な使用状態において万一故障した場合は、無料で修理いたします。
- 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは、無理な使用による故障の場合は有料となりますので、ご注意ください（詳しくは保証書をご覧ください）。
- 修理を依頼されるときは、必ず保証書をご用意ください。
- 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後6年間です。

## 保守修理サービスのご案内

弊社では、保守修理サービスとして、以下の「契約サービス」「スポット保守サービス」を用意しております。お客様のご希望、ご利用状況に合わせたサービスをお選びの上、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にお申し込みください。

### ■ 契約サービス

お客様と契約に基づき、機器管理を行います。

保守サービス料金は月額定期保守料をお客様に負担していただきます。

料金は定額ですので、お客様の予算管理も容易です。

#### • 定期保守サービス

トラブルを未然に防止するとともに、機器の機能維持を行うため、定期的に予防点検、整備調整作業を行います。万一の障害発生時には保守員がお客様に伺い、保守修理作業を実施いたします。業務にご利用の場合などで、機器の使用頻度の高いお客様に最適なサービスです。

#### • 定額訪問修理サービス

万一のトラブルの際に、保守員がお客様に伺い、修理作業を実施いたします。

#### • 定額点検サービス

トラブルを未然に防止するための定期点検のみを実施する契約サービスです。

点検時の部品の交換、障害発生時の保守作業については別途有償とさせていただきます。

### ■ スポット保守サービス

必要に応じてその都度利用していただく保守サービスです。

保守サービス料金は、サービス実施の都度、お客様に負担していただきます。

#### • スポット訪問修理サービス

お客様のご依頼により、保守員が修理にお伺いします。

修理料金はその都度ご清算いただけます。なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、訪問に必要な費用は別途有償となります。

#### • スポット持込修理サービス

弊社パーソナルサービスセンター、またはご購入元にお持ち込みいただき、修理完了後に、お客様にお引き取りいただけます。経済的な費用で修理できます。

#### • スポット引取修理サービス

お客様のご依頼により、弊社指定の運送業者がお客様をご訪問させていただき、機器を回収いたします。修理完了後に、お客様までご返送させていただくサービスです。

なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、往復の運送に必要な費用は別途有償となります。

#### • スポット点検サービス

お客様のご依頼により、保守員がお客様を訪問させていただき、機器を整備・点検します。

機器の長期間の使用や移設作業後に点検を行いたい場合などにご利用いただけます。なお、点検時に部品交換などが必要と判断された場合は別途有償とさせていただきます。

\*アフターサービスなどについて、ご質問などがございましたら、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元へお問い合わせください。



---

FMV-5533ML5

ハードウェアガイド  
B5FH-0391-01-00

発行日 2000年5月

発行責任 富士通株式会社

---

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。